

# CONTENTS

第14章 私を試す、うまれと誓れⅣ 001

第15章 私を試す、うまれと誓れⅤ 021

第16章 私を試す、うまれと誓れⅥ 047

第17章 私を試す、うまれと誓れⅦ 071

第18章 私を試す、うまれと誓れⅧ 085

第19章 私を試す、うまれと誓れⅨ 103

第20章 私を試す、うまれと誓れⅩ 127

第21章 私を試す、うまれと誓れⅪ 157



作画: 助兵器

原作: 入江君人

キャラクター原案: 茨乃

DRAGON COMICS AGE

あ-6  
1-3



神の神 さまのいない日曜日 III



作画: 助兵器

原作: 入江君人  
キャラクター原案: 茨乃  
富士見書房



ISBN978-4-04-712837-8

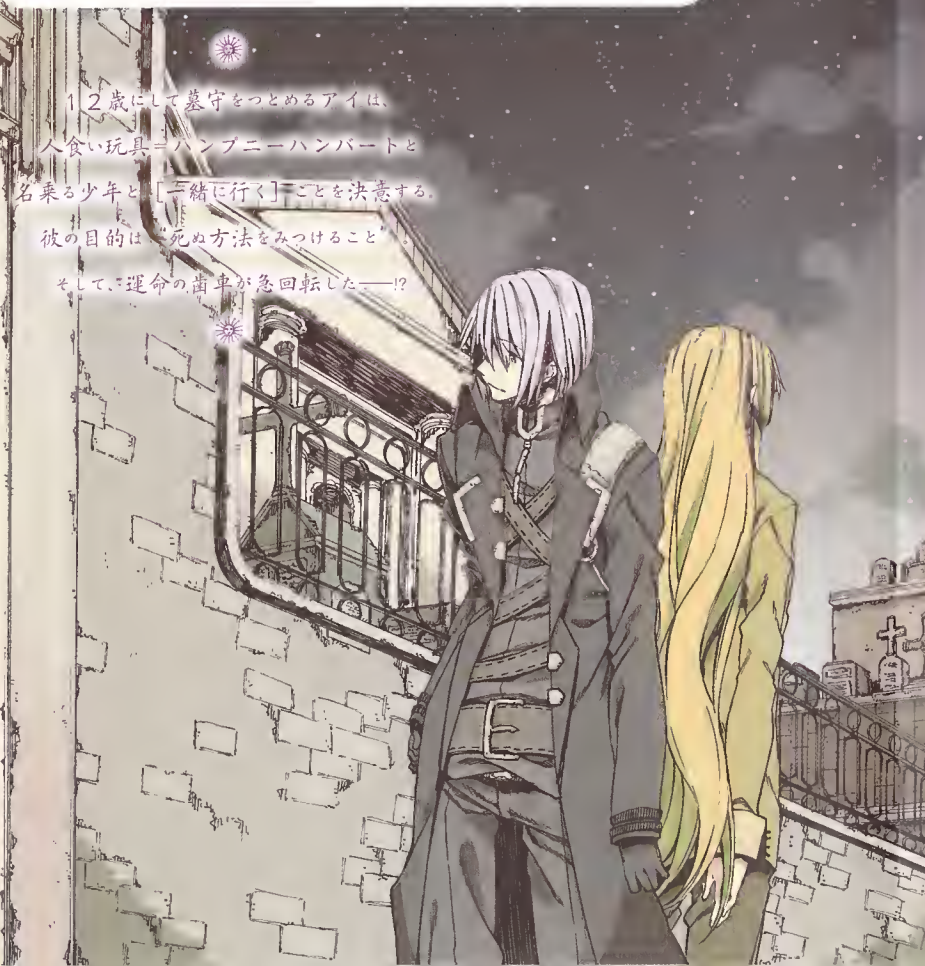
C0979 ¥580E

定価: 本体580円(税別)



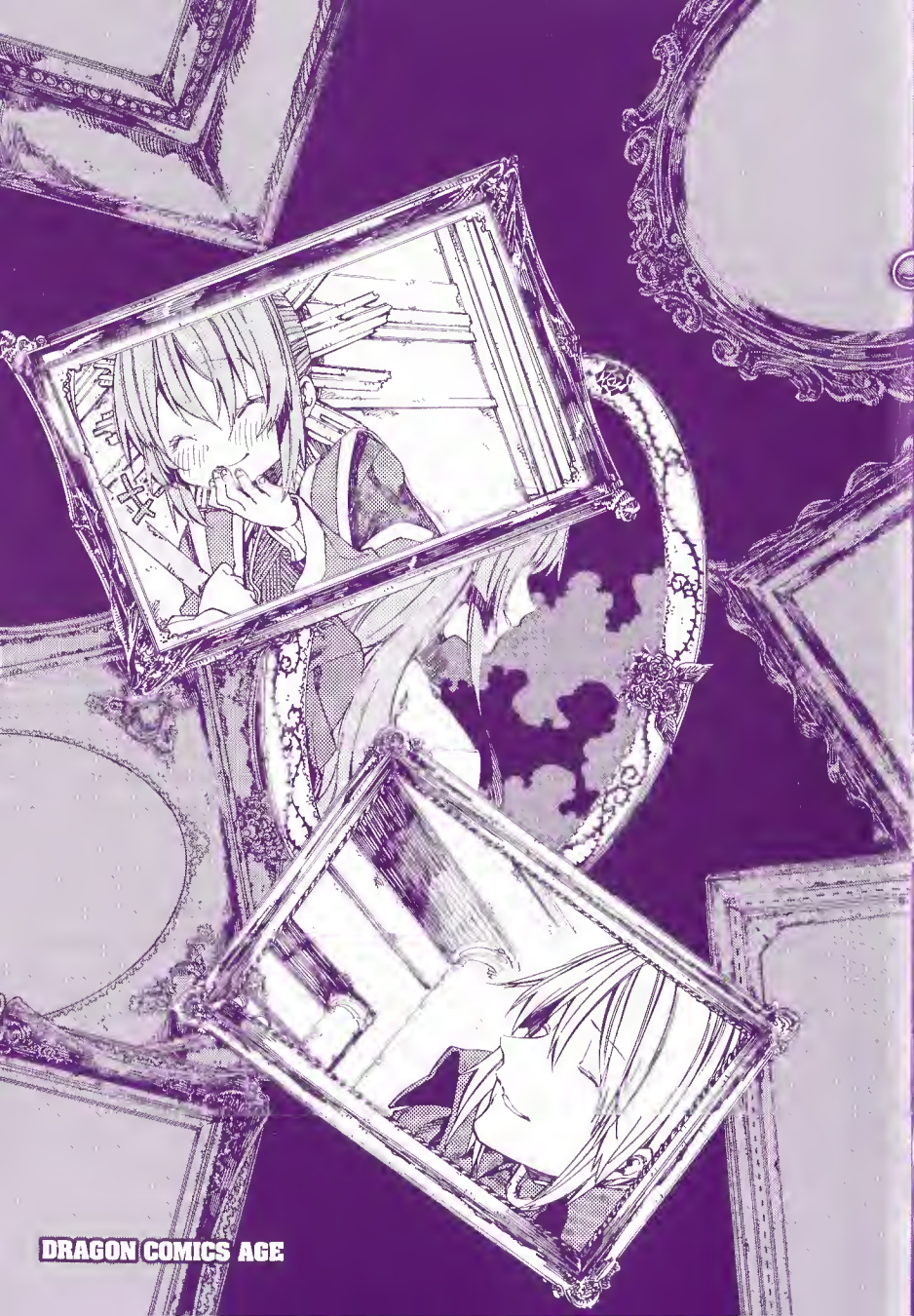
発行: 富士見書房  
発売: 角川グループパブリッシング

12歳にして墓守をつとめるアイは、  
人食い玩具=ハンブニーハンバートと  
名乗る少年と「一緒に行く」ことを決意する。  
彼の目的は「死ぬ方法をみつけること」  
そして、運命の歯車が急回転した—!?



KAMISAMANO  
INAI  
NICHIOUBI





DRAGON COMICS AGE

あ-6

1-3



DRAGON  
COMICS  
AGE

神  
さまのいない日曜日

KAMISAMANO INAI NICHYOUSHI

III



作画…**肋兵器**

原作…**入江君人**  
キャラクター原案…**筑乃 見土房**

神  
さまのいない日曜日  
KAMISAMANO INAI NICHYOUSHI  
III



ゆめ  
夢をみた

きゃっははははっ

ごらん  
アイ!

五歳の頃の  
私が居て

そして…

あはははははっ



かあさま  
お母様がいた

わたし  
むら  
私の村だ



作画: 助兵器  
ABARANEIKI

原作: 入江君人  
KIMIHITO IRIE

キャラクター原案: 茨乃  
SHINO

第14章 私を試す、うまれと誉れⅣ

















うわあ…

きれい…



そうだろう  
そうだろう

天国？  
てんごく

ああ

まるで  
天国みたく  
思わ  
ないか



死者が向かう  
天の国だ

私はこの村を  
天国のような場所に  
したい

この地獄のような  
時代で希望と  
なるような

そんな場所に  
したいのさ

そこは友愛と幸福が  
溢れる夢のような  
所だそうだ

じゃあ

アイが  
それ!

手伝ってあげる!



あんたが？

うん！

ありがとうアイ  
でもこれは  
お母さんの  
仕事だから

あんたはあんたで  
自分のしたい事  
見つけなきゃ  
ならないよ

え……

その上で  
手伝いたい  
ってんなら  
歓迎するけどね

なんにも  
分かんないまま  
生きちゃいけないよ

これ  
忠告だかね





分かった！  
それで  
なにすればいいの？

…あなたは本当に  
人の話を聞かない  
子だねえ



今のあなたの  
仕事は  
いっぱい食べて  
いっぱい遊んで  
たっぶり  
かわいがって貰う  
事だよ



その上で

ぐんぐんでつかく  
なってくれたら  
文句はないね





また背え  
の  
伸びたんだよ



ずいぶん  
重くなったな



うん!



よくやった

続けて励めよ



ぐうぐう

よっし  
腹も減った!  
飯だ飯!

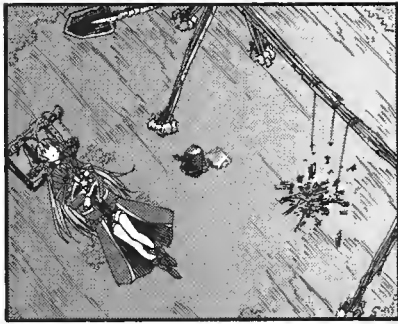
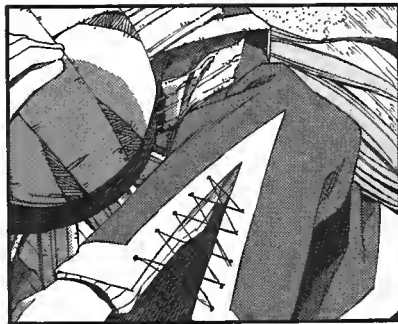
めしいー

旨いもん  
食うぞー!

ぞあー

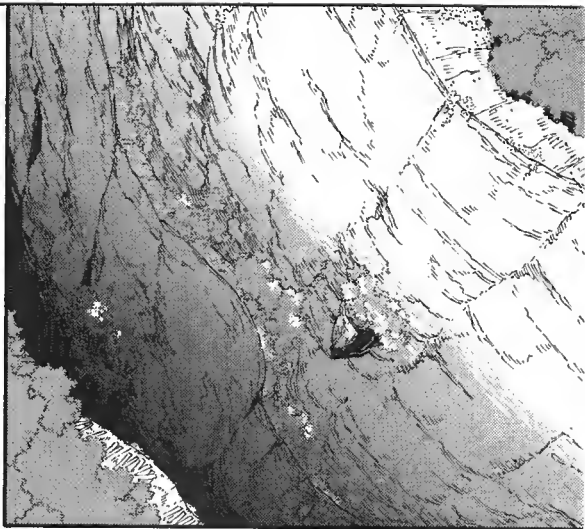


……  
本当に  
……

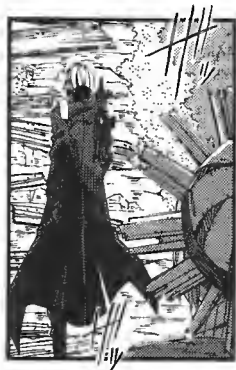


大きく  
なったのですよ

お母様……



さきばん  
昨晚  
考えたのですが







ハナさんの事です

ああ……  
なんだそっちか

私は良いと  
思いますよ

昨夜はちょっと  
驚いてしまっ  
ましたけれど

賛成します

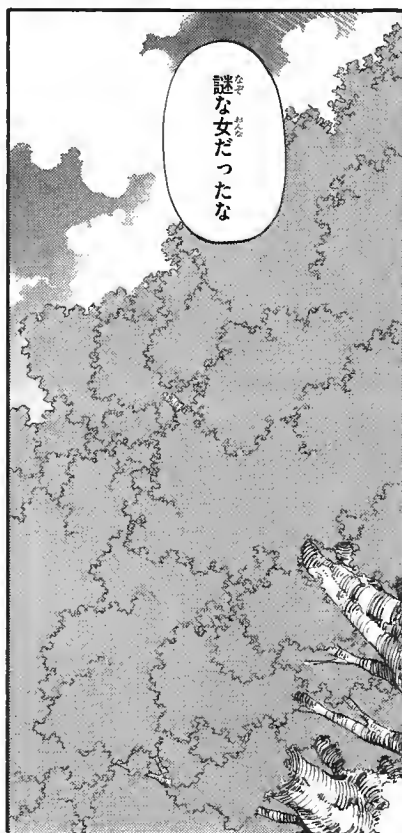
そりやどうも



今後の鑑賞に  
します

それで  
どんな人  
なんですか？

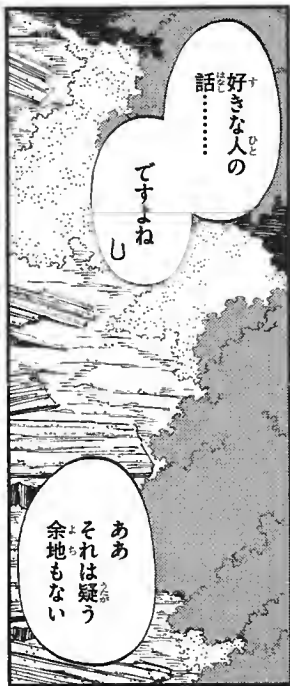
なんてそんな事  
聞きたがるん  
だよ……





お……  
謎ですか

おつ  
なに考えてんだか  
よく分からんし  
なにして  
生きてんのかも  
知らん!



好きな人の  
話……

てすよね  
し

ああ  
それは疑う  
余地もない

妙に世間知らず  
でな……  
表情がよく動く奴だ



半年くらい  
一緒に  
いたんだが

いつも大口開けて  
笑って怒って泣いて  
……また笑って

ふっと  
いなくなつてな



もう十年以上  
前の  
世界が一番混乱  
していた時期だ

生きてても  
三十か四十…

いや  
きつともう  
死んでるだろうな

それでも  
探し続けるの  
ですか？

ああ

つっても  
暇なときにこうして  
知らない地方に  
出かけるだけ  
だな



ては私も  
暇なときに協力して  
あげます

そいつはどうも

そうですか…



それで  
どんな特徴を持った  
人なのですか

ようっ  
まず女のくせに  
ぎやははと笑う



え？


そして  
旨い物には目がない

いぜん  
以前それで  
殴り合いになった  
事がある



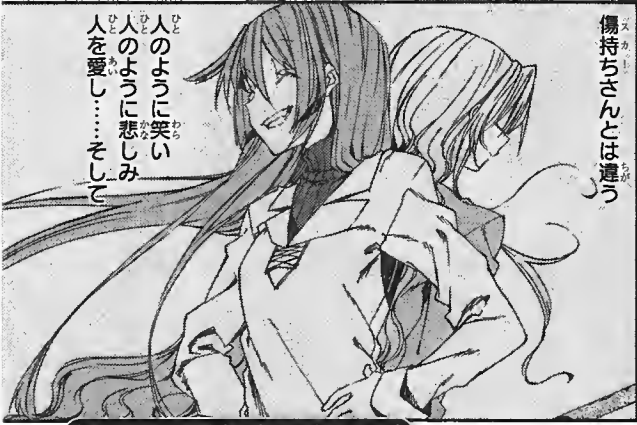






おそらくお前は  
墓守と人間のハーフだ

こわ  
壊れた墓守が  
産んだ子だ



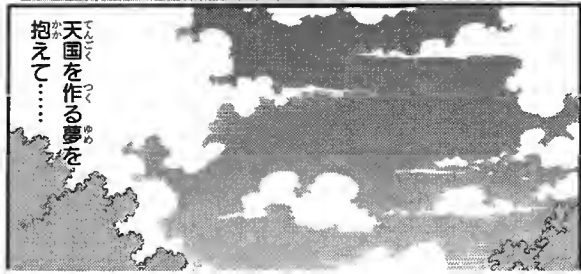
傷持ちさんとは違っ

ひと  
人のように笑い  
人のように悲しみ  
人を愛し……そして



ハンフリーが人間である以上  
お母様は墓守……

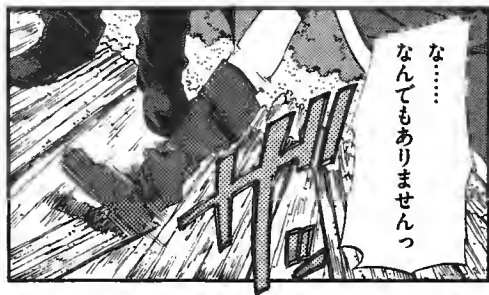
壊れた墓守……



天国を作る夢を  
抱えて……

第15章 私を試す、うまれと誓れV









お父様は

ハナさんを見つけたら  
どうするんですか？



見つけた  
状況に依る……  
だろうな



さあ？



状況に依る……  
ですか？

死んでりや  
それまでだし  
生きてても壊れて  
いるかも知れない

別人のように  
墮落している  
可能性もある

俺を必要としない  
幸せを手に入れて  
いるかも知れない



そんな玉でも  
ないけどな



……もし  
亡くなっていたら？

それはある意味  
一番楽だな



まあ悪の大魔王に  
幽閉されて勇者を  
待っているって  
シチュエーションだったら

助けに行くのも  
やぶさかではない  
……そんなところだ



そんな！

少し泣く







なんかそれ  
違うんですか？

ニュアンスだ

年がら年中  
垂れ流しのお前の  
涙と一緒にするな

うっ  
失礼しました



……それで  
その後は  
どうしますか

さがもの  
捜し物？  
ハナさんの他にも  
あるのですか？

ああ



その後ねえ  
……まあそうだな

いったん俺の町に  
帰って  
またさがもの  
旅に出るかな……

さがもの  
捜し物

知りたい事がな……





あなたの人生  
さが  
搜して  
ばっかりですね

さながら  
じんせい たんきうしや  
「人生の探求者」  
つてところか



んー？  
分かんねえかな  
アイよ



それでその  
さが  
搜し物つて  
なんですか




墓守様には  
はかりさま  
分かんねえかな？




忘れ物が多い人  
わす  
もの おおひ  
つて感じてす

はっはっは  
言うじゃねえか




ハンパニハムパート  
人食い玩具の  
ねが  
願いが

不死身の化け物の  
悲願が




.....  
何てすかそれは.....



古今東西  
不死者の願いは  
決まっている





おれ  
は死ぬ方法  
を  
さが  
搜している







こんなに  
荒廃しているのに？



綺麗ですね

綺麗ねえ……



……  
荒廃？

どこですか

十五年前には  
この山を開発する  
計画があった

本来ならばここは  
切り崩されて  
なにか適当な……

利権にまみれた  
巨大な建物が  
出来るはず  
だったのさ

ところが人間様は  
世界に  
見捨てられ……

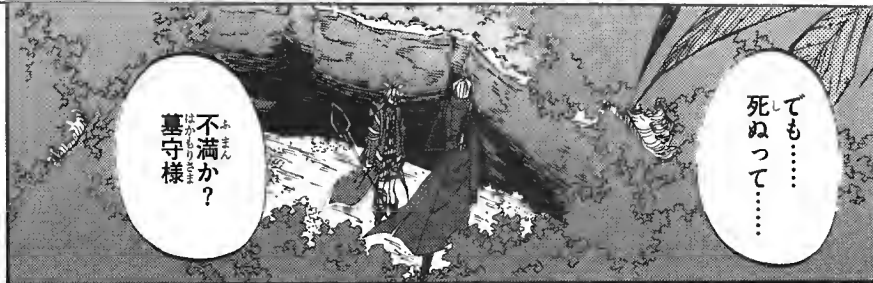
結果がこの  
荒廃ぶりだ

そんな荒廃した  
世界で  
お前は生きて  
いきたいか？

自分が  
人類最後の人間に  
なるだなんて……

俺は人が  
好きだからな

冗談じゃねえよ







想像しろ想像しろ  
想像しろ想像しろ

人類  
じんるい

最後の  
さいご

ひとり  
一人だ



そんな  
ババ引きたいか？

だれ  
誰も  
だれ  
誰も  
誰もない



俺だけが  
ずっとずっと  
ずっといる

ずっとずっと  
ず——つとだ

人類……最後の一人……  
じんるい……さいごのひとり……





こわ  
怖いの……  
ですね……

……  
お父様  
とくから



だからあなたは  
怪物に  
なりたいたのですね

……  
そうだ



おれ  
俺はそれが  
おそ  
恐ろしくて  
たまらない

ああ……  
こわ  
怖い



……



つくづく因果だ



……ああ

死してはな  
く生せいが  
恐おそい  
なんて  
本ほん  
当とうに  
てた  
らめ  
な  
人ひと  
です  
ね



でも

あんしん  
安あん  
心しん  
して  
下くだ  
さい

あなたを  
ひとり  
一人にはしません

それは



墓守の  
やくめ  
役目ですから




どうして墓守が  
いるのか  
いま分かった  
気がします

きっと人は  
死に  
願ったんです


死と  
それを  
見てくれる人を

それが始まりで  
お母様や傷持ちさんが  
生まれたんです


……でもそれもまた  
変わっていった  
名前や夢を  
ほしがったりして……



お父様は  
さいごひとり  
最後の一人になど  
なりませんよ

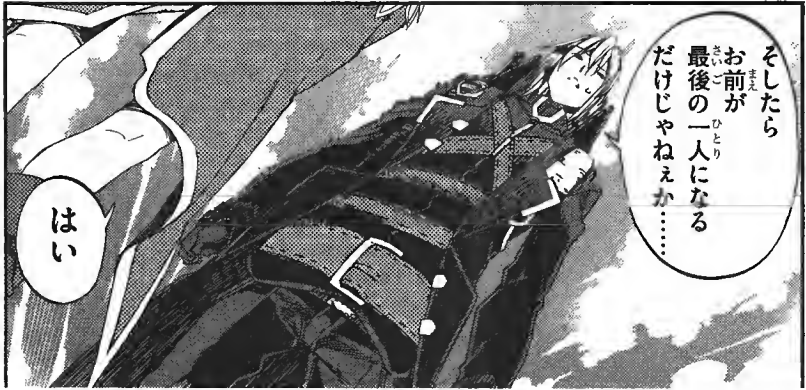


その時は必ず  
わたしたち  
墓守が側にいて  
あなたを  
みと  
看取りますから



そうして  
さいご  
最後のお墓を  
掘りますから

お前……



そしたら  
お前が  
さいごひとり  
最後の一人になる  
だけじゃねえか……

はい



ハイじゃねえよ

……  
なに笑ってんだよ

……無理だろが

お前まえには寿命じゆみんが  
あるだろうし  
耐たえられるとも  
思おもわねえよ

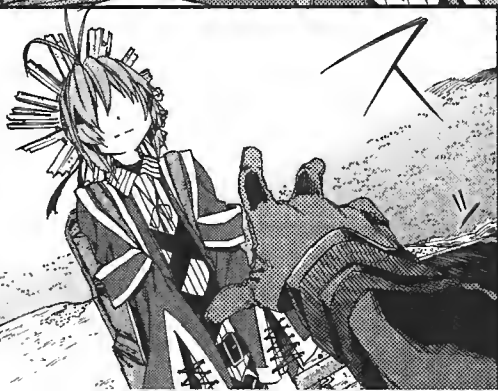
でも

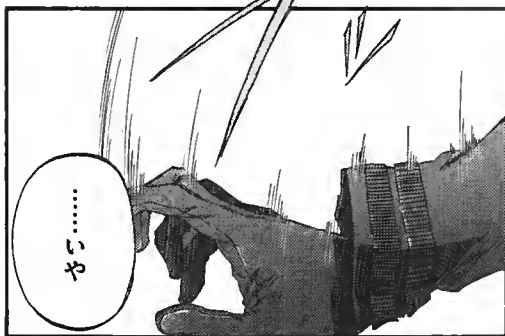


お父様とうさまに  
寂さびしい思おもいは  
させられませんか



お前まえ……









本当に奇妙な  
奴だよー  
お前は

あれだけ怯えて怖がつて  
それでもちっとも  
態度を変えない……

怯えたまま立ち向かい

恐怖したまますり寄り

負けたまま勝つ

相反した感情を  
当たり前の  
ように  
同居させて

緑の瞳を晒す  
のみ……

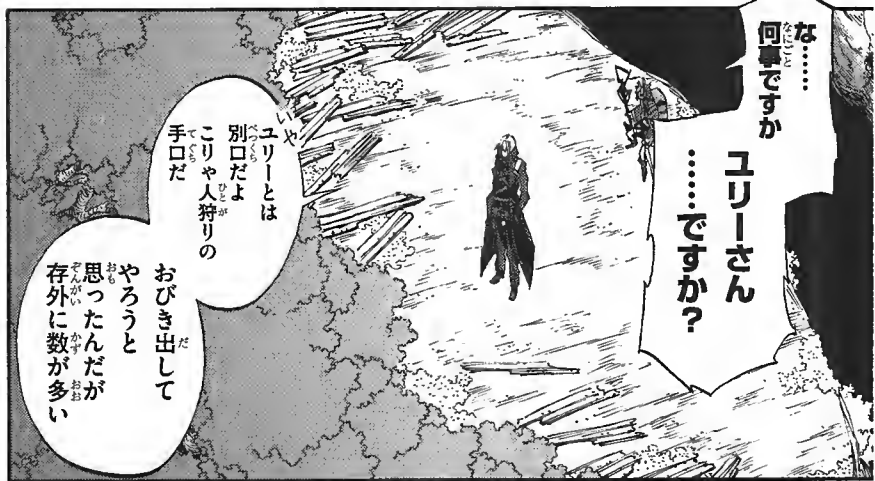
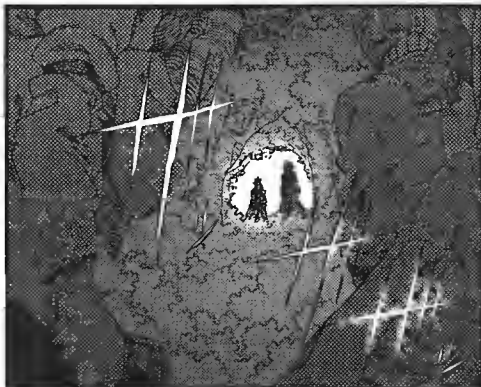


なんですか  
お父様？

いや  
なんてもない

行こうぜ……  
とりあえず……





おちついて  
落ちついて  
ますね……  
さすがです……

だてに化け物を  
やっていない

こちとら何万発撃たれ  
ようとハズレだが  
相手は一発撃たれれば  
アタリなんだ

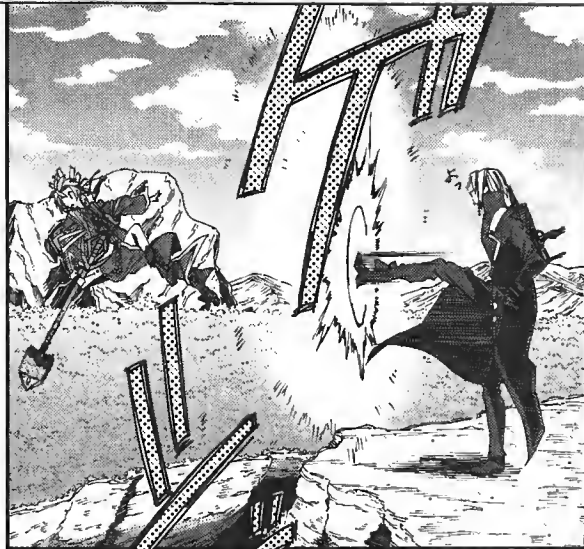
どこの馬鹿共だか  
しらんが  
俺を狙うとは  
運の尽きだな

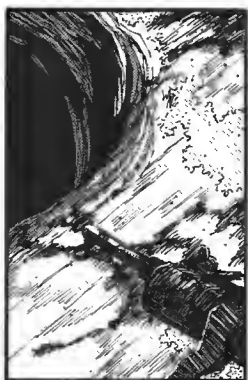
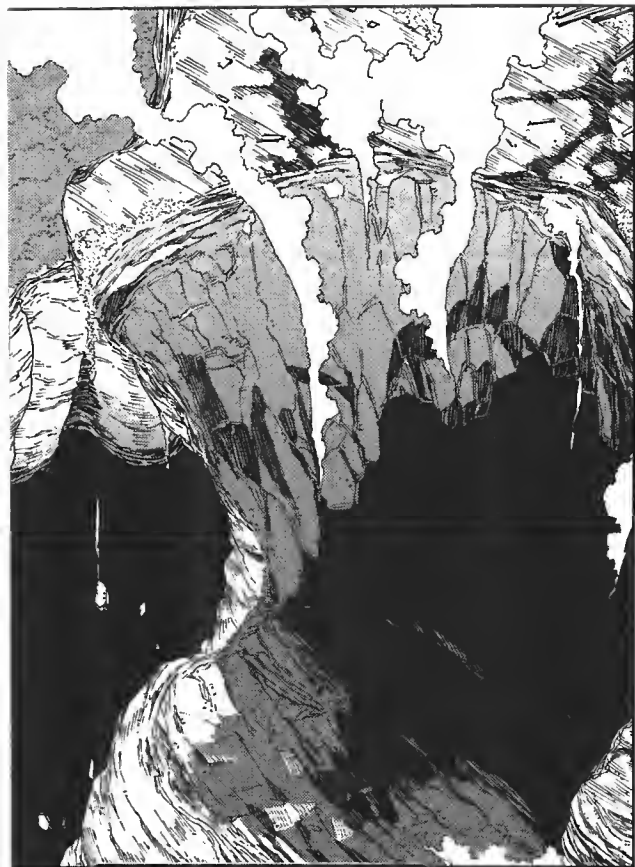
はあ……  
頼もしいです

そうですわね……

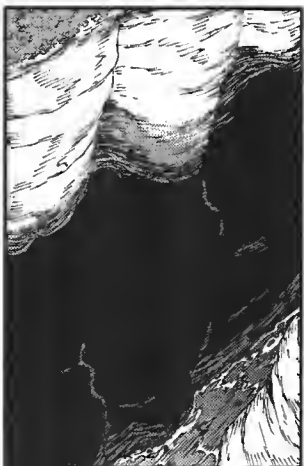
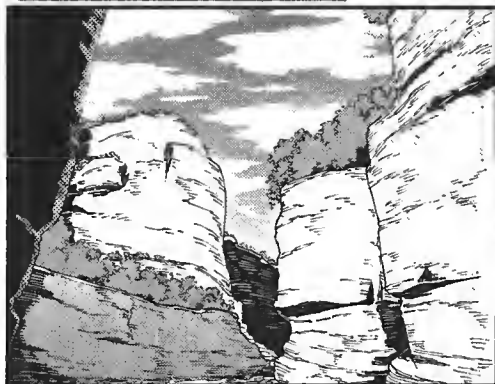
というわけで  
アイ

へ？





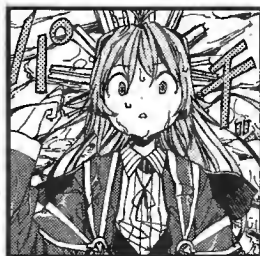
第16章 私を試す、うまれと死







第16章 私を試す、うまれと誉れⅥ





ユリーさん……



あなたが……  
助けてくれた  
のですか？

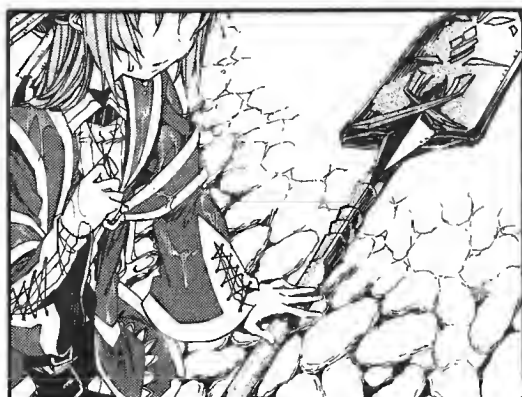
そうだ



君はずっと  
それを  
手放さなかったな



……





お母さまの……

形見ですから

そうか



次があれば  
荷物を捨てた  
方がよい

命あつての  
物種だろう



それと服も  
絞っておいた方が  
よいぞ

それほして  
やるから

どうも……



それで  
何があつたん  
ですか？

なにがって……  
覚えてないのか

うーん

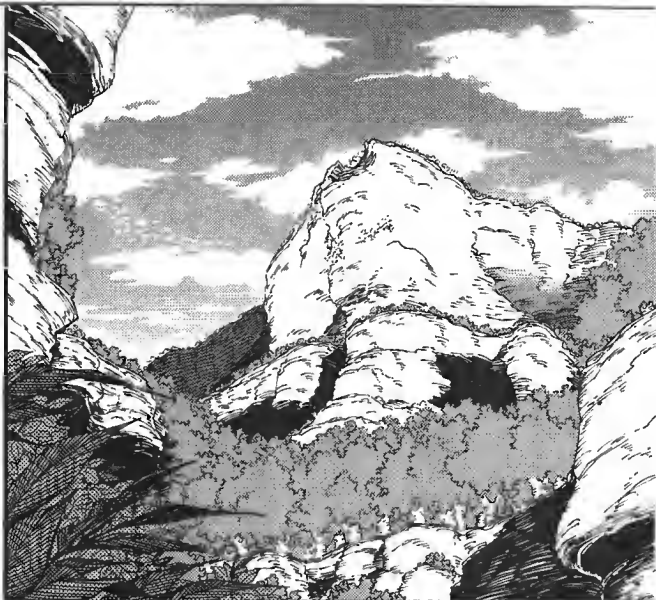
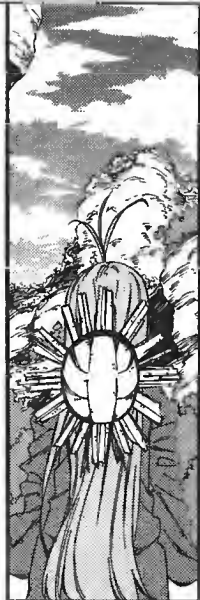
えーっと……  
確か……

おも  
だ  
思い出したか

……







.....

とんでもない  
人ですね

確かにこの方が  
幾分か安全かも...

まったくだ



これは奴お得意の  
自殺攻撃だ

爆弾やら  
なんやらで  
自分ごと...な



私<sup>わたし</sup>がいた場所<sup>ばしょ</sup>が無<sup>な</sup>くなって...  
それに火薬<sup>かやく</sup>の匂<sup>にお</sup>いも...

これが  
お父<sup>おとう</sup>様の言<sup>い</sup>っていた  
敵<sup>てき</sup>の罠<sup>わな</sup>...

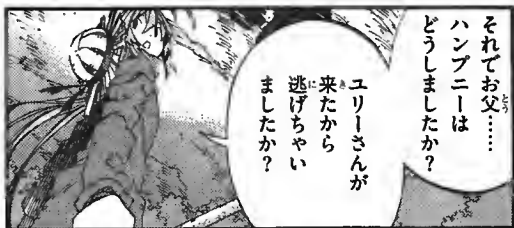
いいや



こまったやつだ

あなたやっぱり  
いい人ですね

なんだ  
藪から棒に



それでお父……  
ハンブニーは  
どうしましたか？

ユリーさんが  
来たから  
逃げちゃい  
ましたか？



鉄砲突つけた事は  
今回の件でちやらに  
してあげます

それについては  
すまなかった……

いや……  
それなんだが

どうも様子が  
おかしくてな……

崖で爆発が起きた  
後も当たり前の  
ように銃撃が  
続いていたんだよ

そして一斉に  
撃ち合う音が  
響いて

ぱたりと止んだ



奴の特性上  
一対多でのハンプニーの  
勝利パターンなら

銃声は段階を  
踏んで少なくな  
るものなんだよ

まさに息の根を  
止めるようにね



つまり  
どういう事ですか？



だが今回は  
一斉射撃を最後に  
銃声が止んだ

それに……

なんですか  
これ？

さっき見つけた

ゴム弾だ  
暴徒鎮圧に  
使ったりする

火薬もあまり  
嗅いだ事のない  
やつだ

それに空気銃に  
使う圧縮空気の  
匂いもした

わざわざそんな  
玩具を用意するとは  
どうも  
ただの賊じゃないな

お父様はどんな傷でも  
死ねば全て  
元通りになる

お父様に勝つには  
生け捕るしかない  
これはそのための……

もしかして  
捕まったりとか……







なんですか？



ハンプニーを

……助ける？



いや……  
奴は不死身の  
化け物だぞ？

誰かに頼られる  
事はあっても  
誰かを頼りにする  
事だけはない男だ

今回も自分で  
なんとでも  
するだろうさ



助けに行っても  
余計なお世話と  
言われるだけさ

そんな風に  
決めつけないで  
下さい!!

あの寂しがり屋で  
へそ曲がりだから

助けてあげないと  
どんどん  
ねじ曲がって  
いっちゃいます!!

これ以上私の前  
あの人を化け物だとか  
ほざくんでしたら

今だって自分の事  
本気で  
化け物だと思って  
いるんですから

馬っ鹿みたい!!!

……驚いたな  
まだあいつを  
人間扱いする奴が  
いたか

当たり前です!!

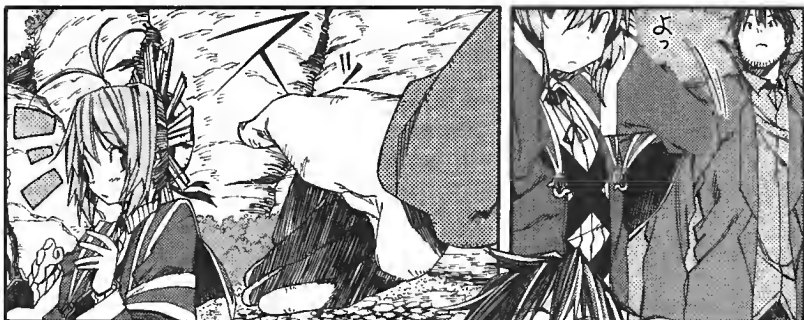
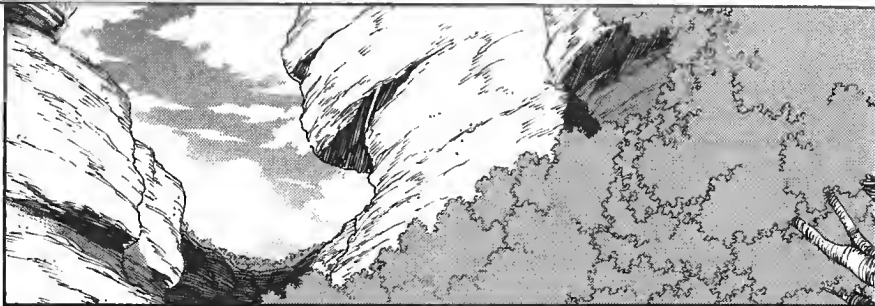


けちよんけちよんに  
しますからね!!!

良いですか!

……わかった

二度と  
いい言わないよ








アイです



アイ

あっ  
パンツ絞った手で  
握手しちゃった  
けど  
大丈夫かな……


良い名だ



君の村の事は  
見ていた

君が抱える事情や  
「お父様」との事も  
聞いていた

その上で  
協力しよう



あなたは……  
「あの事」の意味が  
分かるんですか？

たぶんな

だが……

わ  
分かってます  
い  
言わなくて  
けっ  
結構です

あれは  
わだ  
私の問題ですから  
もんだい

きみ  
君はなにか  
きづ  
気付いたのか？

じぶん  
自分がどこまで  
きづ  
気付いて  
どこまで気付いて  
いないのかは  
わかりません

でも  
とうきょう  
お父様の言ったとおり  
ぜんぶ  
もうすぐ全部  
み  
見えてくる……

そんな予感が  
するのです  
よかん

よかん  
予感……  
か

でも私の予感も  
な  
捨てたもんじゃ  
ないんですよ

とく  
特に最近の悪い  
予感の的中率は  
きょう  
異常です……

そのようだ  
ハハッ



ああ……  
それなんだが



さて……  
行きましう  
ユリーさん  
道案内よろしく  
お願いします



やっぱり助けたく  
ないですか？

いや……  
そういうわけじゃ  
ないんだ



そうだ……  
そもそもユリーさんは



悔しいが  
奴が言った事は  
事実だ  
認めたくないが……

今の俺に  
奴を撃つ事なんて  
出来そうにない





俺は  
見ていない

奴がどこに  
連れて  
いかれたのか



つか  
使えな!!

……っ

かっとうわる  
格好悪っ!

それ心情的にじゃ  
なくて能力的な  
問題なんじゃ  
ないですか!?

なん  
何ですかそれ!  
あなたもどなたも  
あなたの元々の目的は  
お父様では  
なかったのですか!

いま  
今の俺にあいつを  
撃つ事なんて……  
出来ない

しょうがないだろ!

きみ  
君がどんぶらこ  
どんぶらこと  
川流れて  
来るんだから





それについては  
感謝  
しますけど……



そんなだから  
「優先順位の問題だ」  
なんて言われ  
ちゃうんですよ

人の痛いところを  
的確に  
突きおつて



ああ  
ついさっきまで  
水の中だ

幸か不幸かこんな  
すぐの場所へ流れに  
引つかかったのが  
お陰で見つかった  
遅れちゃった



私は二時間も  
気絶して  
いたんですか!?



！  
そんな事より  
今の時間は……

ともかく戻ろう

あの大人数だ  
あとおの  
後を追うのは  
訳ない

俺は獵師だ

そうだな

急がないと

……ですね

おや

これは  
奇妙な場所  
でお会いしましたね

アイさん



ス……

スカー  
傷持ちさん！

こんにちは

……いえ



そろそろ  
こんばんは

でしょうか









悲鳴……

それに……

お

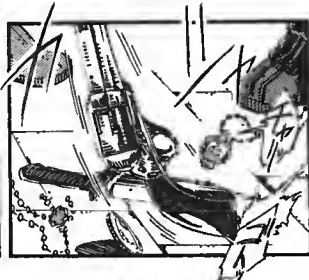
どこかの山小屋か  
それとも……

あ

お  
起きた？

おい  
寝惚けてるー？





俺おれもい線せん  
いったと思おもったん  
だがなく

なんなんだ  
手前てまえはあ!!

あれ?  
名前なまえ言いわな  
かったつけー?

聞いてきねえよ!

いいや  
言いったぜ  
人食ひとくいい玩具おもちゃ

あんた極度きょくどのトラウマを  
負おった状態じょうたいで死ぬと  
その記憶きおくを  
失ううんだって?



副賞ふくしょういただき!!

!!

ッ  
.....





ぎいッ

ああああッ

はき

すげえ綺麗  
きれい

ああああああ

あんた本当に  
ほんとうに  
素晴らしい  
すばらしい  
玩具だけれど

死んだ瞬間血の一滴  
しんだしゅんかんち ひとつのち  
まで元通りに  
消えちゃうからパーッ  
ごとの補完がなあ……



それだけが残念  
ざんねん  
だけどもあ  
太らないから良いか  
ふと

くそッ  
さっきの悲鳴……  
ひめい

あれは俺のものか……ッ  
おれ



この  
ども  
くそ共があああ!!

やだなー  
そんなに  
怒らないでよ  
おこ

畜生！

畜生！

畜生！

最悪の連中に会った……！

拷問の一つや二つなら  
なんて事はねえ……

精神を殺され  
記憶が途切れるなんて  
そうそうない……

なのに……

ここに連れて  
来られてからの記憶が

一切ない……！！





いったい何をされた...

殺す...



ボロ着に着替えさせられたと思ったが...



手前ら何なんだ！  
何が目的だ！

んー？  
それも  
忘れちゃったの？



あはあ  
悪態も新品だあ！  
こうでなきやね



ヒコ  
それハ説明  
してないワヨ

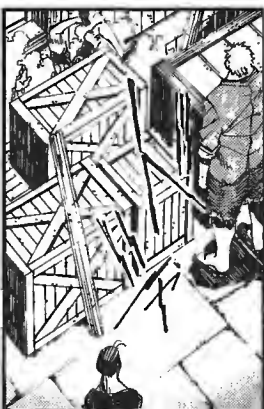
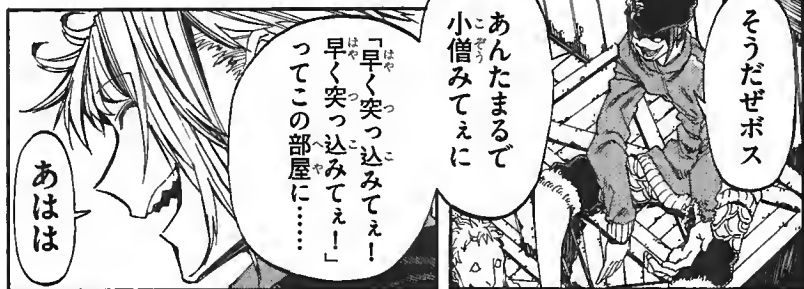
あれ  
そうだっけ？



殺す！

殺す！

殺す！



この腐れ死者どもがあ!!!



ふうん  
まあ気付くよね

どう?  
いい手  
だろう

だまれ  
腐れ頭があ!



手前は  
死者の中でも  
とびっきりの糞だ！

まあそうだね

話もせずいきなり  
切り刻んじゃって  
ごめんね

一区切り  
入れようか

みんなも  
いいよね？

一通り  
満足した？

満足したもなにも


ボス

あんたが一番長かった  
じゃねえか


とんだ遅ろ…

あはは  
悪い悪い


自制心の喪失  
欲求の単純化  
「ワニの脳」  
による支配



殺人衝動持ちが  
死者になった時の  
典型的な思考だな




でも俺らほど  
クールな連中は  
そうはいないぜ？



あつた  
改めまして  
クソハンパート  
人食い玩具  
俺はヒョーツ

仲間内では  
ヒョで通っている

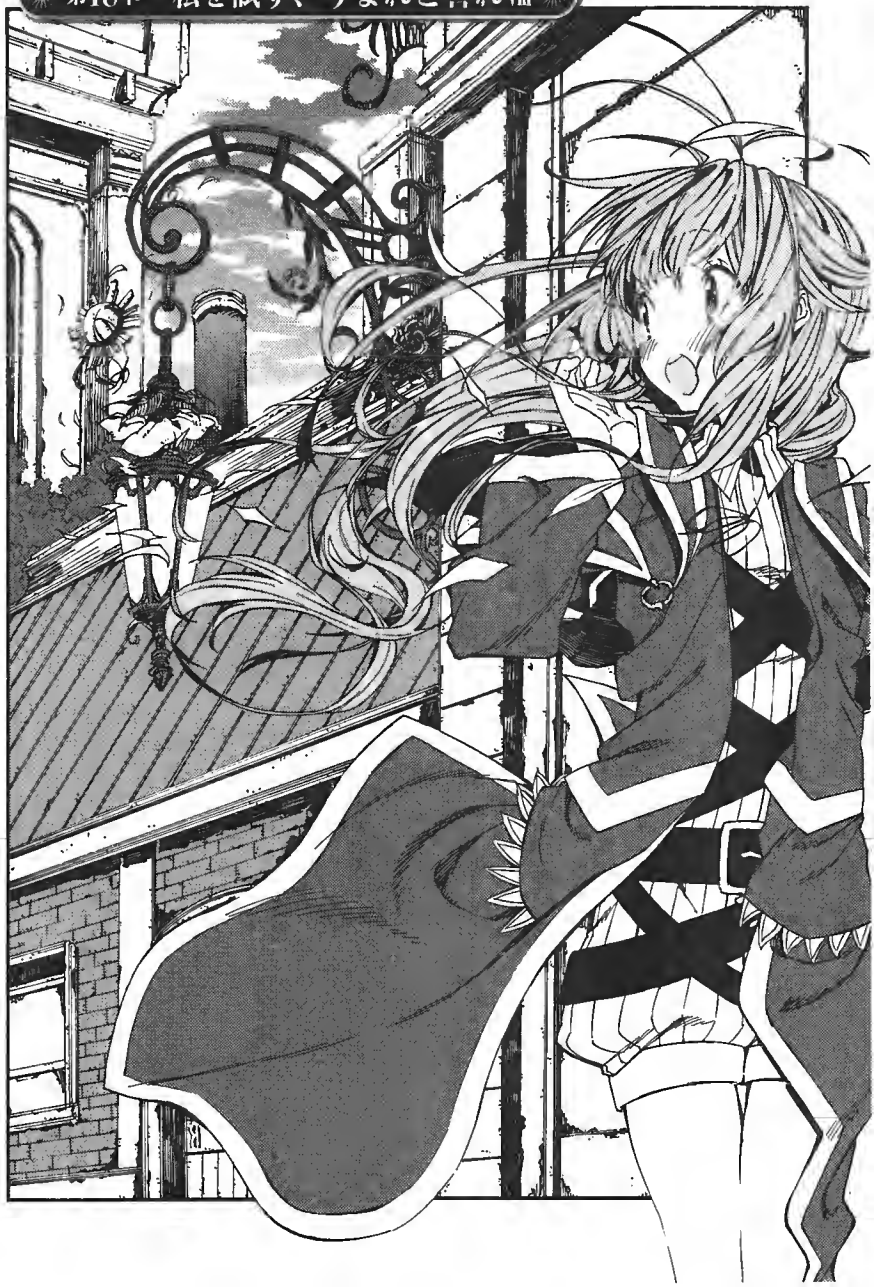


あんたにもぜひ  
そう呼んで  
欲しいかなー？



第18章 私を試す、うまれと咎れ







死

死んで  
化物になりました  
ってか



あんたになるって  
のは  
難しかったぜ



形なんかどうとでも  
なるけれど  
その不死性ってのが  
難しい……

だから



くそ婆にくそをこねて  
貰おうとしたのか  
間抜けめ……

そいつらもか



まっ  
そゆこと……

生き続けるあんたの  
事象を  
俺らは死なない事で  
解決したのさ

本当は、魔女に  
頼みたかったけど  
時間がなくてさ





えがた  
得難い  
仲間たちさ

かれ  
彼らは俺の  
さんどうじゃ  
賛同者だよ



そうでもないかと  
あんたを捕まえ  
られないってのも  
あったけどね

じつさい  
実際あんた  
凄すぎ

あつ  
集めた仲間の  
半分は喰われて  
もう話も出来ない



人食い玩具の  
面目躍如って  
とこだね

自分を褒めたい  
みたいだが……

お前は  
俺みたいな間抜けを  
捕まえる為に  
生を売り渡した

真正正銘の  
大馬鹿野郎だよ

めめ  
それとも外見を  
褒められるの  
嫌なタイプ？

あつちやー  
最初にその話  
しちゃったから  
怒ってるんだ

あんたは  
素晴らしい

そんなことないよ



ツメーン

会話の一方通行……

人の話を聞けよ



それは分からないけど  
あんたの精神は  
最高だよ！

ただ無言で悪を絶ち  
どす黒いと  
言いはばかる正義を  
為して

人を  
殺す殺す殺す！！



あんたの一番の  
素晴らしさは  
その精神にある！



卵が先か鶏が先か

呪いがあんたを  
作ったのか  
あんたが呪いを  
引き寄せたのか……



う~~~~ん！  
最っ高！！

自己投影の悪化

ずいぶんと勝手な  
イメージを  
抱かれてるな





おれ  
ころ  
俺が殺してあげるよ！



でも俺って昔から  
やれば出来る  
子だからさ！

きっと何とかなるんじゃない？



どうやって？

さあ？



お前が？

俺を？



うんっ

あんたの願いを  
叶えてあげる！





客観性<sup>きやくかんせい</sup>の消失<sup>しつうし</sup>  
自己<sup>じこ</sup>の肥大<sup>ひだい</sup>……

お前<sup>まえ</sup>じゃ無理<sup>むり</sup>だよ

そんな事<sup>こと</sup>言<sup>い</sup>わず  
色々<sup>いろ／＼</sup>試<sup>ため</sup>して  
みヨーよ!



ほらはら

ナイフ・銃<sup>じゆう</sup>  
ハサミ・鉗<sup>きかん</sup>子<sup>し</sup>  
てしよー

あと槌<sup>てこ</sup>子<sup>こ</sup>・滑車<sup>かつしゃ</sup>  
鉋<sup>かんな</sup>・ヤスリとか  
色々<sup>いろ／＼</sup>あるよー

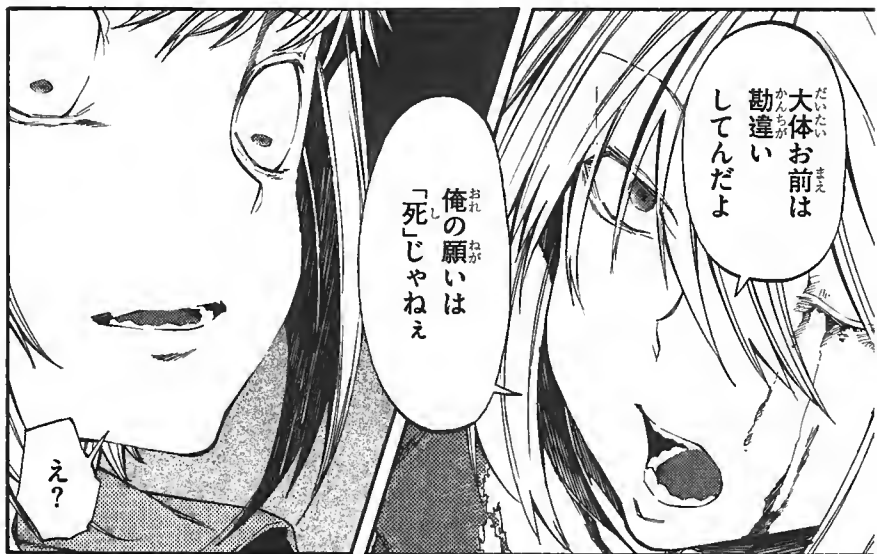
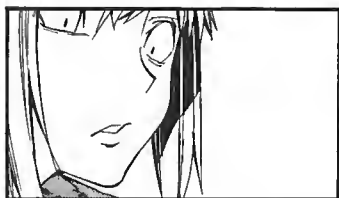
火薬<sup>かやく</sup>類<sup>るい</sup>に  
万年筆<sup>まんねんぴつ</sup>とかもねー



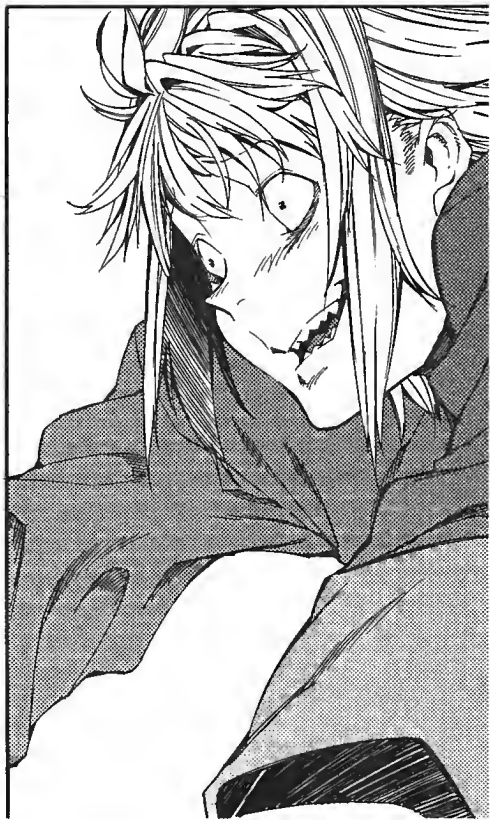
そんなもので  
俺<sup>おれ</sup>は殺<sup>ころ</sup>せねえぞ

まあまあ  
とりあえずとりあえず  
お試<sup>ため</sup>しお試<sup>ため</sup>し

もうずいぶん  
試<sup>ため</sup>したよ……









そんなもんじゃ  
ねえんだ……



誰にも聞かせた  
事が無い話だ……

何を言おうと  
している  
ハンブニー



俺はただ  
死にたいんじゃない……

お前には  
聞かせるのが  
スジってものだろう


……なあヒコよ……

やめろ！




やめろ……  
俺の期待を  
裏切るな

だが



俺おれは幸しあわせに  
死しにたいんだよ





俺がそうして  
きたように……

俺も誰かに……  
看取って貰いたい

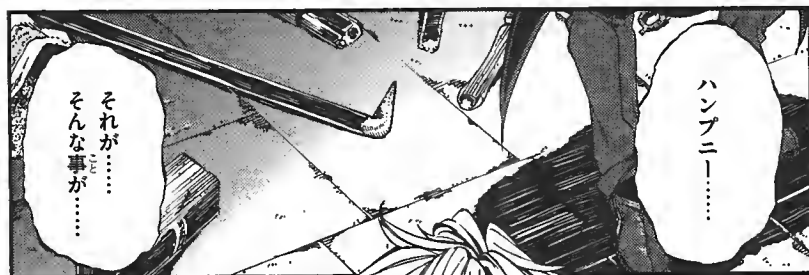
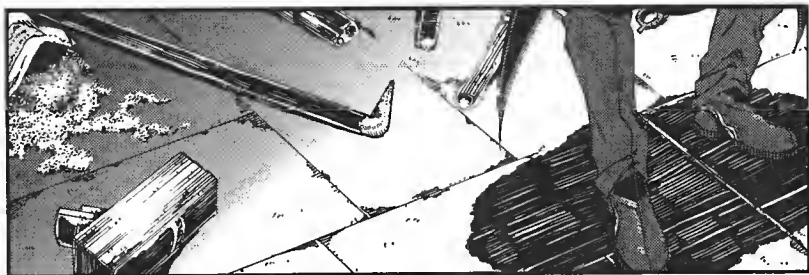
場所  
どこでもいい……

友と……  
妻と子どもたち  
後に続く者を  
泣かせて……

惜しまれて……

少しばかりの  
未練を残し……  
俺は逝きたい……

それだけだ



あんたの望<sup>の</sup>みい？





そんな……  
普通に平凡で  
下らない死が  
あんたの望みい？

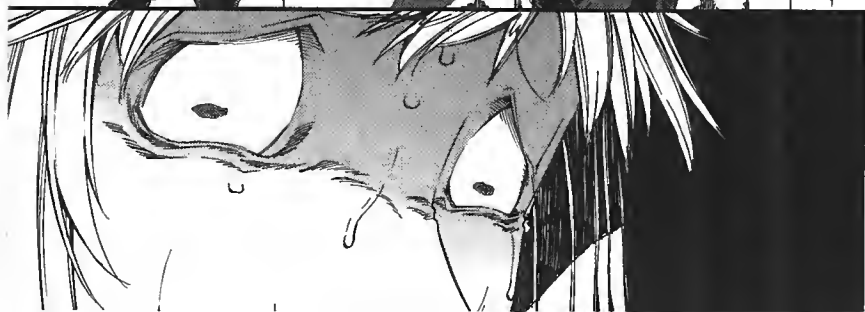
下らないとは  
言ってくれるな……

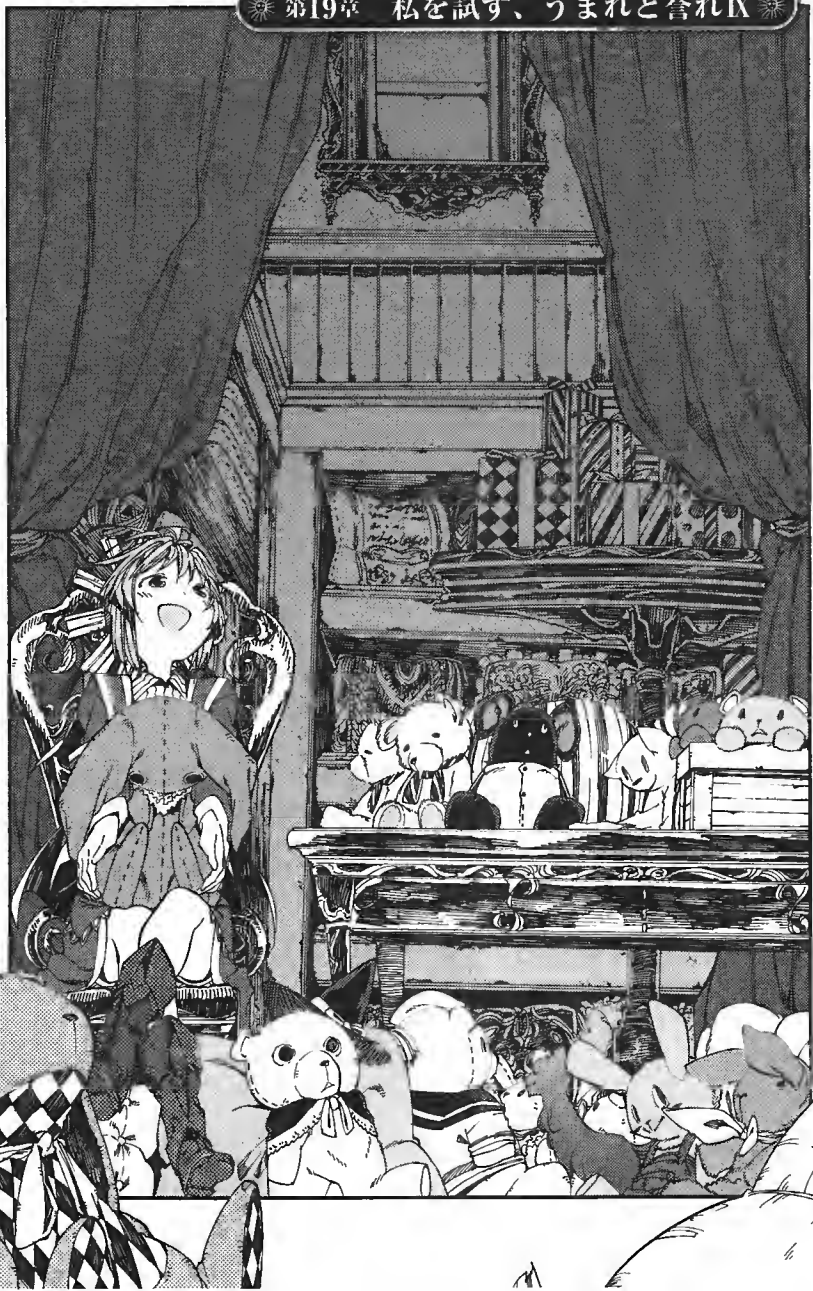
こんな終わった  
世界じゃ……

もはや誰にも  
叶わぬ夢だぜ？

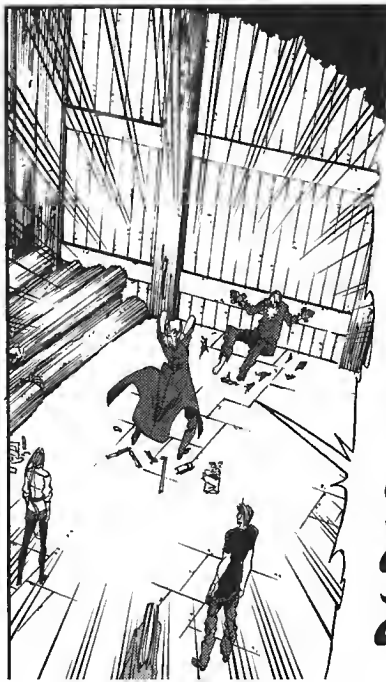
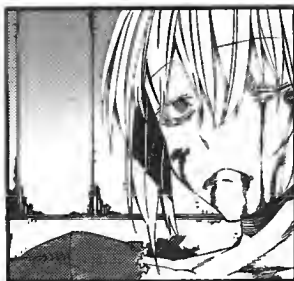
俺の望みは

幸せに生きて  
幸せに死ぬ事だ

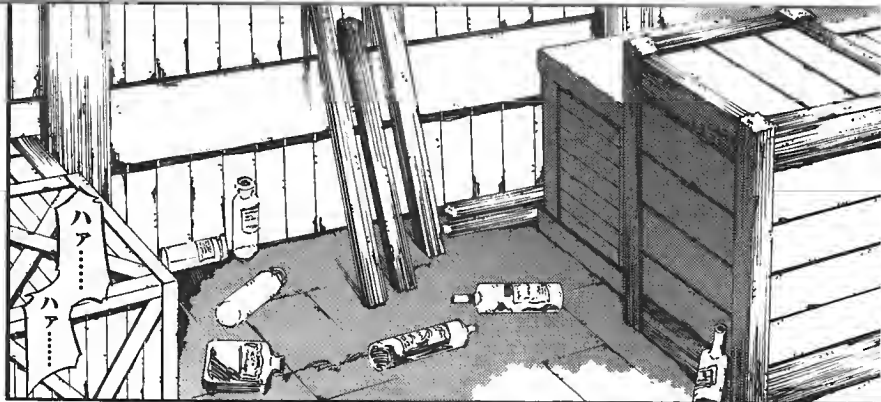








ぎいいやあああああ





集<sup>しゅう</sup>中<sup>ちゅう</sup>力<sup>りき</sup>の欠<sup>け</sup>如<sup>じょ</sup>……  
熱<sup>ねつ</sup>狂<sup>きやう</sup>も信<sup>しん</sup>念<sup>ねん</sup>も  
一<sup>いつ</sup>瞬<sup>しゅん</sup>の夢<sup>ゆめ</sup>か……



……ま  
どのみちお前<sup>まえ</sup>らは  
終<sup>はつ</sup>わりだ

終<sup>お</sup>わり?? どうして?  
こんなに  
夢<sup>ゆめ</sup>いっばいじゃない?



予<sup>よ</sup>測<sup>そく</sup>能<sup>のう</sup>力<sup>りき</sup>の沈<sup>ちん</sup>滞<sup>たい</sup>……

手<sup>て</sup>前<sup>まえ</sup>らを受<sup>う</sup>け入<sup>い</sup>れる  
余<sup>よ</sup>裕<sup>ゆう</sup>なんかこの国<sup>くに</sup>には  
も<sup>も</sup>う無<sup>な</sup>いんだよ

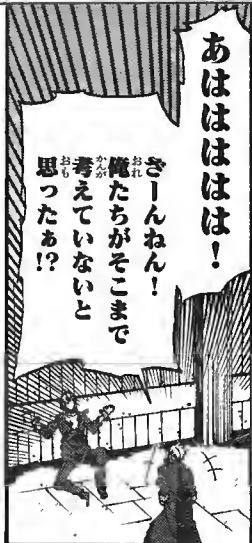
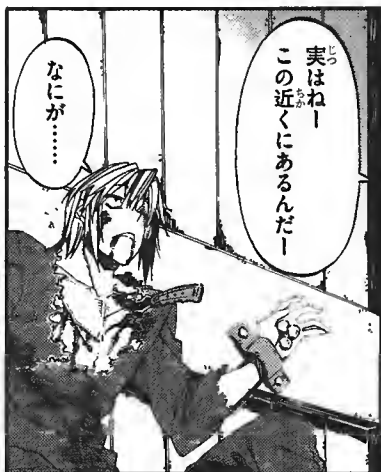
北<sup>きた</sup>へ<sup>へ</sup>の切<sup>き</sup>符<sup>ふ</sup>も  
用<sup>よう</sup>意<sup>い</sup>てきねえだらうし

元<sup>げん</sup>氣<sup>き</sup>におっ勃<sup>た</sup>つて  
モ<sup>も</sup>ノもいずれば  
腐<sup>くさ</sup>ってだらしくなる

そ<sup>そ</sup>うな<sup>な</sup>った時<sup>とき</sup>……

俺<sup>おれ</sup>がお前<sup>まえ</sup>らを簡<sup>かん</sup>単<sup>たん</sup>に  
墓<sup>はか</sup>守<sup>もり</sup>に  
渡<sup>わた</sup>すと思<sup>おも</sup>うなよ





そこは苦痛や  
（へんげん）  
偏見が一切無い  
死者の国で

超幸せな所  
（ちやうじやうなところ）  
なんだって

ふうん……  
そこなら化け物を  
（おまへら）  
受け容れて  
くれるってか？

さすが腐れ頭の  
（くさがしら）  
考える事は  
腐ってやがる

なに  
羨ましいの？

いいでしょう  
（うめ）  
夢みたいだね……  
きつといい所だねえ

それでも  
なかったけどな

え？なに？  
（こと）  
どういう事？

知ってるの？



そこなら

俺<sup>おれ</sup>が壊<sup>こわ</sup>した

.....  
おい





わらうなあー!!!



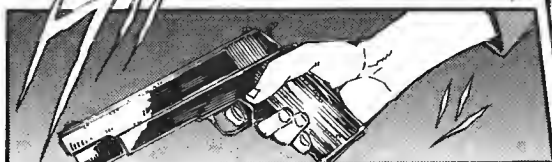
うるせえ!!



ははははは!

まだ理解できる  
脳が残ってたか!  
存分に絶望しろ!











アイ!!

ひっ!



は...はあ  
そうなんですか...

よく分<sup>わ</sup>からないけど  
じゃあそのまま...



アイ

時間<sup>じかん</sup>の問題<sup>もんだい</sup>じゃ  
ねえ!  
なんでお前<sup>まえ</sup>でここ  
来たんだよ!



お...怒<sup>おこ</sup>らないで  
下さいよ  
これでも急<sup>いそ</sup>いで  
来<sup>き</sup>たんですから...



あわね

お父<sup>おとう</sup>様<sup>さま</sup>...  
なんて姿<sup>すがた</sup>に...

んなこと  
どうでもいい!



どうして  
お前<sup>まえ</sup>が!







かん  
けい  
関係あります!!



たにん  
他人だったら  
みす  
とつくに  
見捨ててますよ!!

うるせえ!!  
たにん  
くらだ  
他人が口出すな!!

だつたら  
き  
消えろよ!  
かんけい  
関係ねえだろ!!



かんけい  
関係あるって  
そう言ってるんです!



.....あ?

わたし  
私はアイ

ハンブニーハンパート  
人食い玩具と  
アルファはがもり  
原初の墓守  
その娘です

.....  
それがどうした

お母様は……  
綺麗で

子どもっぽくて  
大飯ぐらいて……

ぎやははと笑って

.....  
全て俺が語った  
事じゃないか……

口笛が下手で  
料理が下手で……

掃除が上手で  
言葉遣いが  
おかしくて

くしゃみが  
おつきくて……

手先は器用なのに  
靴紐を結ぶのだけは  
苦手で

あま  
甘いものが  
好きで……

そしてあなたを……

何やってんだ……？

これだけは  
どうも上手く  
いなくてな……

煙草と香水が  
嫌いで

おおめし  
大飯ぐらいて……

あと……  
大飯ぐらいて

あい  
愛していました





まえ  
おれ  
お前が俺の……

……  
娘？



ですから……

そう

言ってるじゃ  
ないですか……



そっか

茶髪黒目か……

アイツが墓守だったなら  
顔を隠すつてのにも  
顔ける……か

ねえねえねえ

ア!! イ!!

盛り上がりてる  
とこ  
ちよっとめねね

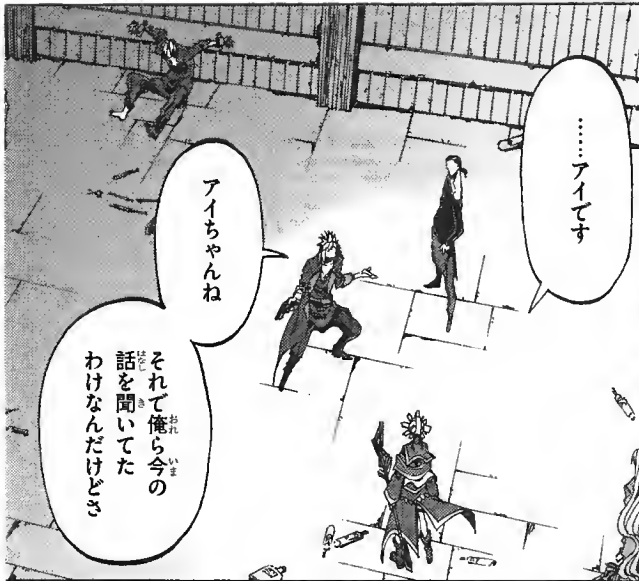
あなたが  
首謀者ですか

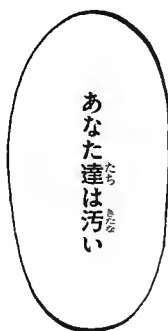
なんてひどい事を……

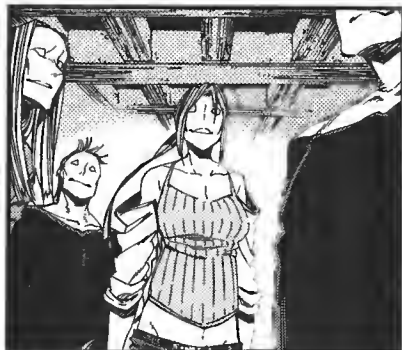
んー?

その程度で  
怒ってるの?

別に死んだって  
平気なんだから  
いいじゃん

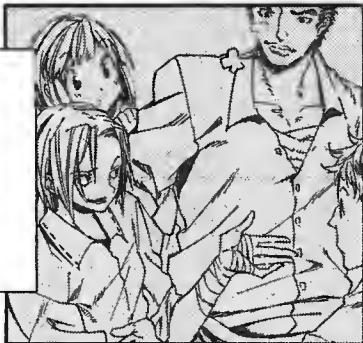




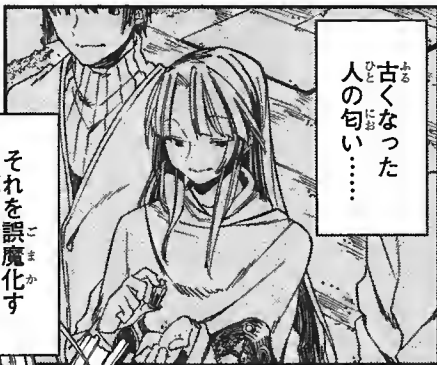




残り続ける傷……




それを誤魔化す  
香水の匂い……



古くなった  
人の匂い……



私の村は



ネクロポリス  
死者の谷

死者<sup>ししゃ</sup>が幸<sup>しあ</sup>せに  
過<sup>す</sup>ぐす天国<sup>ばしょ</sup>





てんごく  
天国を手放したく  
ない彼らは  
かれ

はおや  
母親が死んだ  
ばかりの  
わたし  
子供を騙し

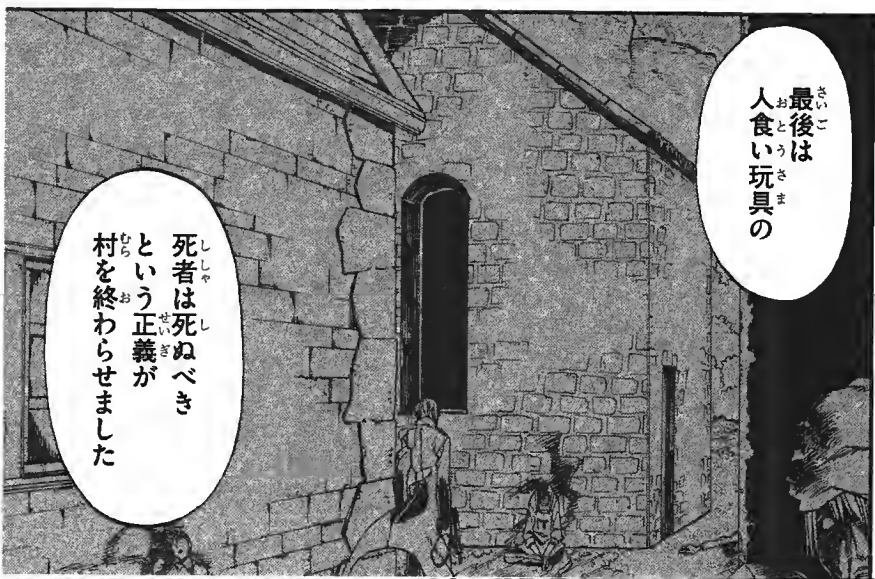
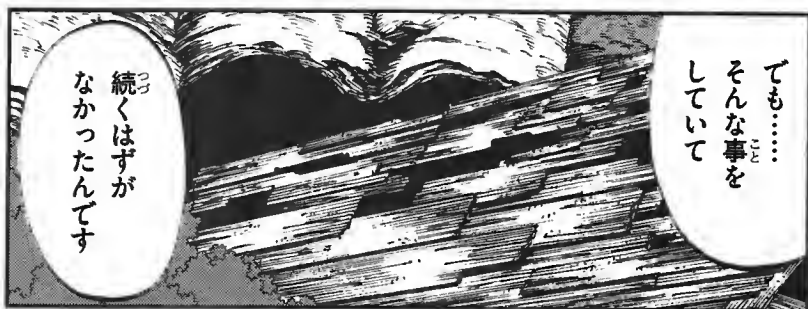
ついで  
都合の良いように  
きょういく  
教育して

て  
その手にシヨベルを  
にぎ  
握らせた

こと  
そうする事で他の  
はか  
墓守を回避して  
はいひ  
村はさるざると  
わら  
生き続け……

あやま  
ヨーキを謝らせ

かじろ  
墓守を過剰に  
わたし  
かわいがった……



見慣れていた  
治らない傷は  
普通ではなく……

好きだった古い匂いは  
死臭……

私が綺麗だと  
感じた人達は  
特別ではなく

人間として普通  
……だったのですね

俺が言うのも  
何だが……

あまり恨むな

知っちゃったか……

.....

あ  
まえ  
当たり前です

みんな……

みんな  
しょうがなかった  
んです

。。

ほか  
みち  
もっと他の道が……

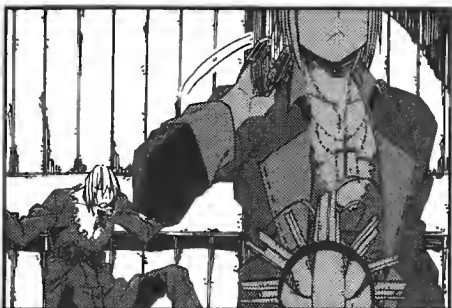
でも……  
ひと  
おくびょう  
人は臆病  
だから……

わじ  
すべ  
私に全てを  
打ち明けて

かあさま  
す  
お母様のように進む  
道があったのではとも  
おも  
思いました……

わじ  
はな  
私が話せと  
言えなかったように

かれ  
はな  
彼れも  
話せなかった……



ねえアイちゃん

もう非道をしないと  
誓うのなら  
見逃してあげま……



さて皆さん

私は基守ですが  
同時に人です

話終った？





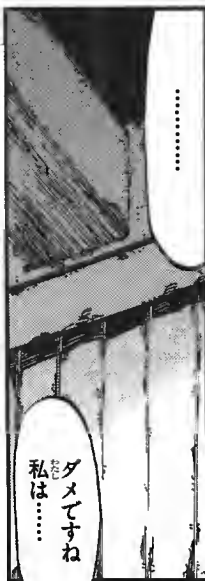
君さ  
何か要求できる  
立場じゃないでしょ？

私の言う事は  
聞いて  
くれませんか



正直あなたに  
断られて  
少し嬉しいです

お父様にひどい事を  
したあなた達を  
許せそうに  
ありません……



ダメですね  
私は……



じゃあ  
どうする？

そうなの？  
ごめんね？



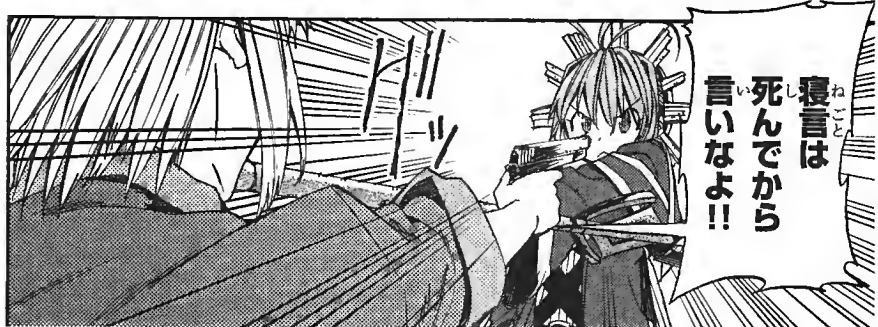
せめてあなた達に  
安らかな眠りを……



おいヒコ!  
手前の相手は  
俺だろうが!!



やめろアイ!!



寝言は  
死んでから  
言いなよ!!



た—!!

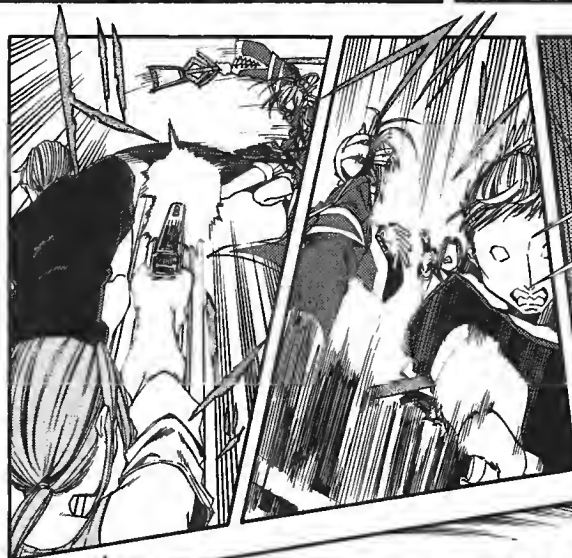
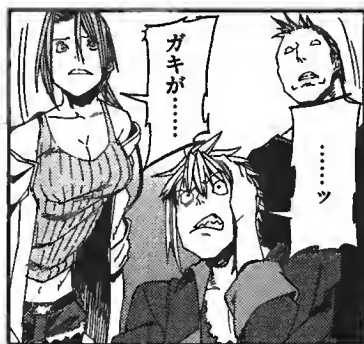
なにやってんだ!

お前まえ頼たのいんだから  
早く逃にげる馬鹿ばか!!

そうはいきません!  
お父様とうさまを  
助たすけるまでは!!

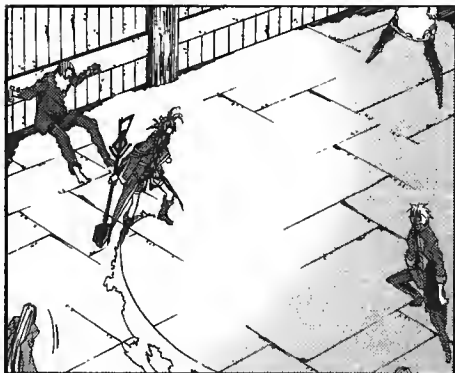
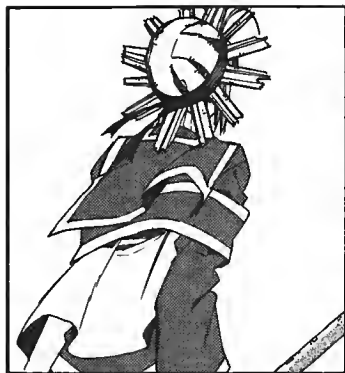
スカーさん!  
バックアップを  
お願いします

はい





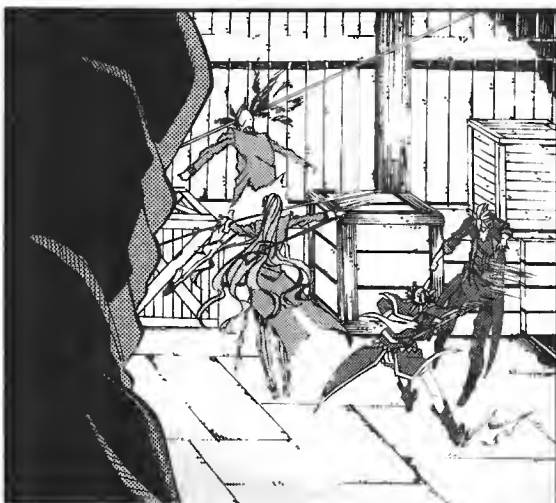




強いじゃん

アイ……  
お前……

あなたが  
強すぎるん  
ですよ!!



ほ  
れた女を探して  
おんなさが

まさか  
おんなあ  
娘に会う羽目  
はめ  
になるとはな……



それにしても  
おれ  
俺に娘とはねえ……



おんなあ  
おのの奴……

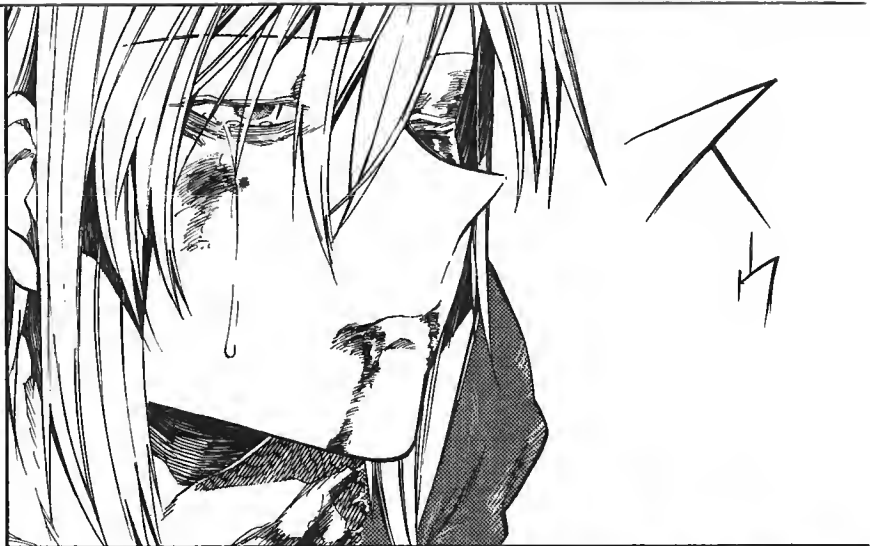


い  
や本名はアルファか？  
おんなあ

かっ  
勝手に消えたと思ったら  
おも  
死んでやるし……



ホント……  
かっ  
勝手によ……



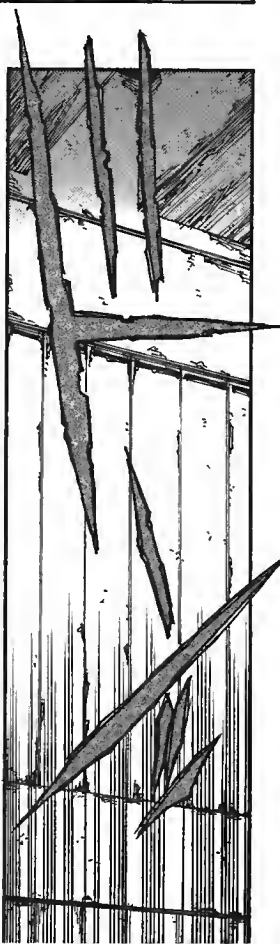


またやつでやるのも  
いいかな……

あんなで書ぶんなら  
まあ



……おんぶか……



ちくしょう……









お父様!!  
おとうさま



泣くなよ  
な

お父様……  
おとうさま



つたく……  
しょうがねえな

あんまし  
困らせんなよ……







俺<sup>おれ</sup>の名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>はキヅナ

だからお前<sup>まえ</sup>は

キヅナ・アステイン

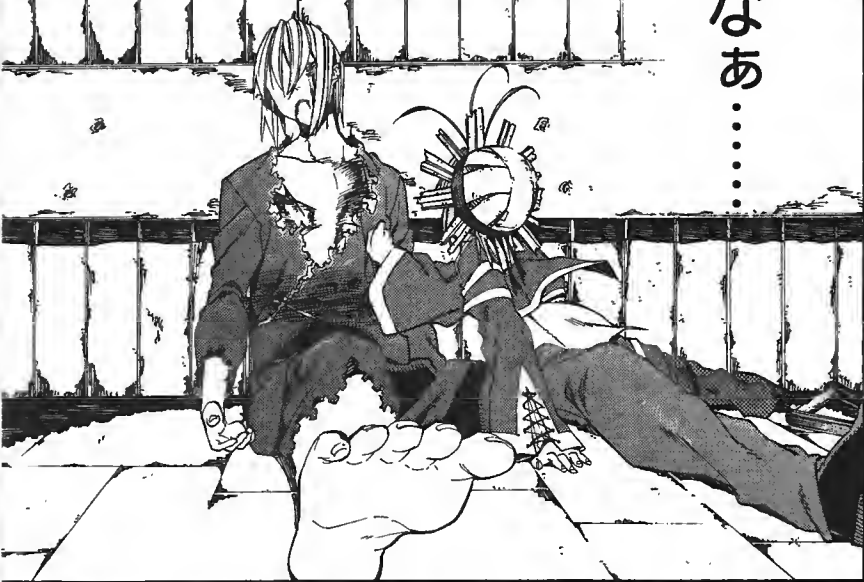
アイ・アステインだ





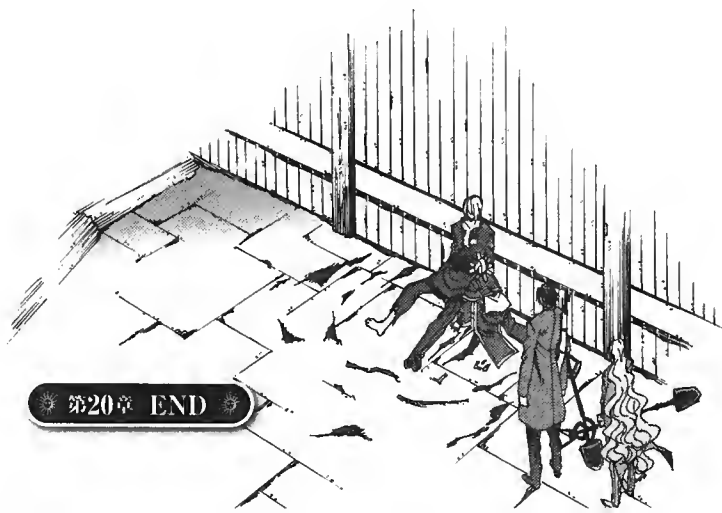


死しにたくねえなあ……





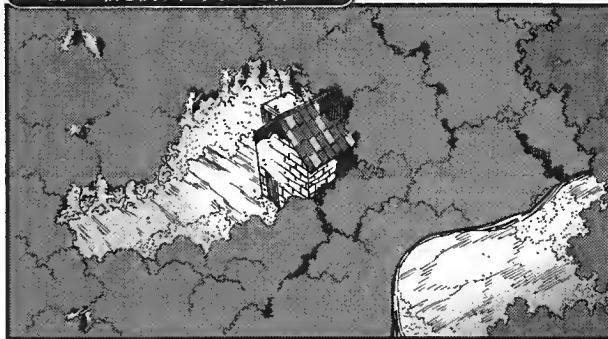
お父様？



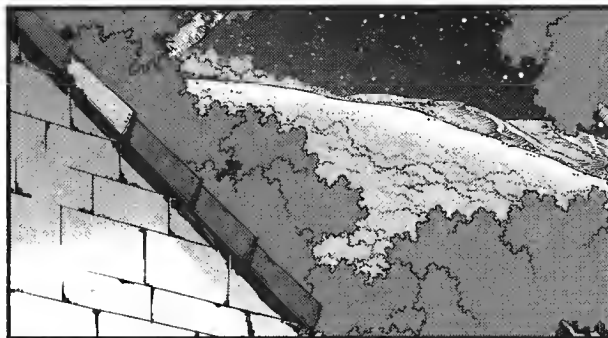
第20章 END







その日  
お父様が目を  
覚ます事は無く

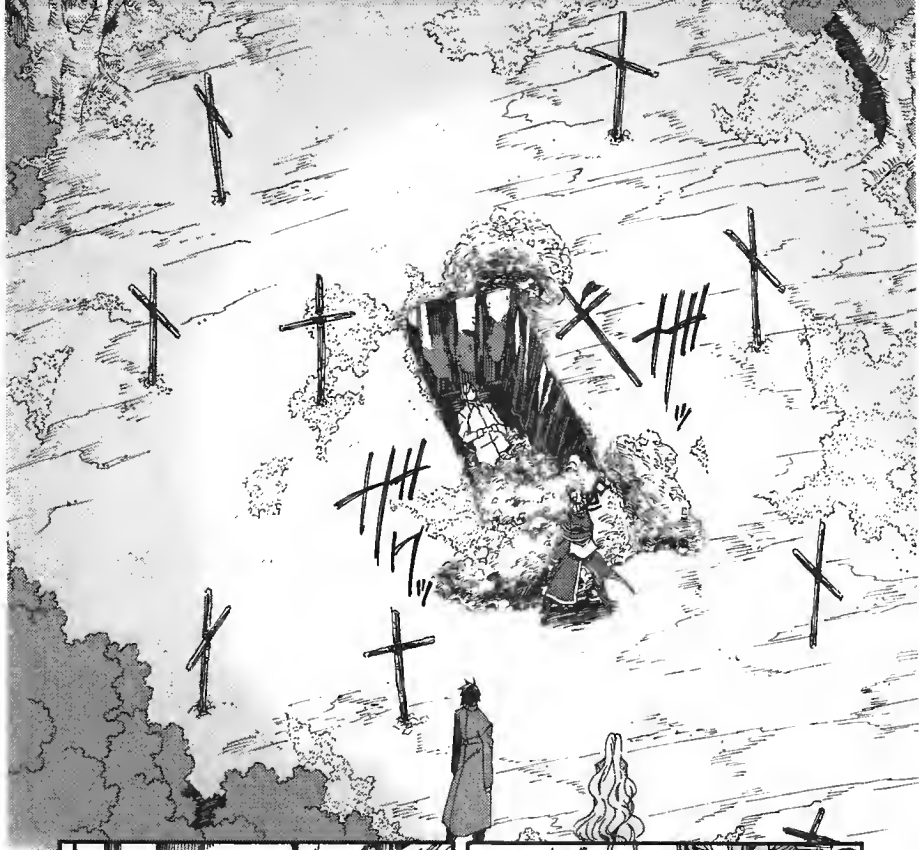


それから  
二日ばかり経った日の  
夕方……




お父様は  
死者として  
目を覚ましました


第21章 私を試す、うまれと誓れⅪ








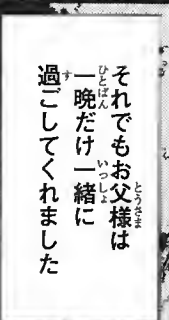
目覚めた時  
お父様は



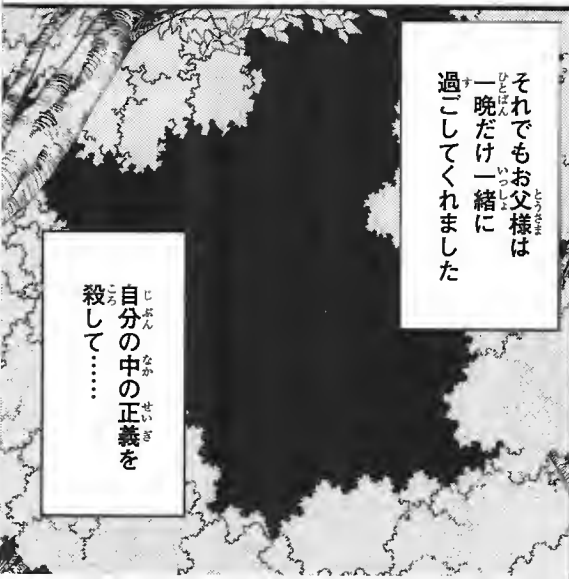
自分を認識して  
苦く  
笑ってました




本当はすぐにでも  
墓守の手に  
かかりたかったのかも  
しれません




それでもお父様は  
一晩だけ一緒に  
過ごしてくれました




自分の中の正義を  
殺して……



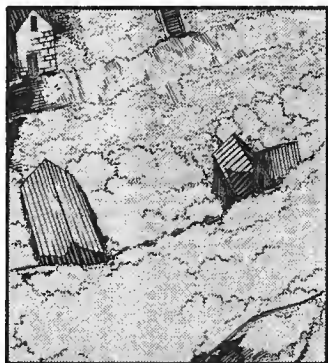
夢<sup>ゆめ</sup>のような  
時間<sup>じかん</sup>でした



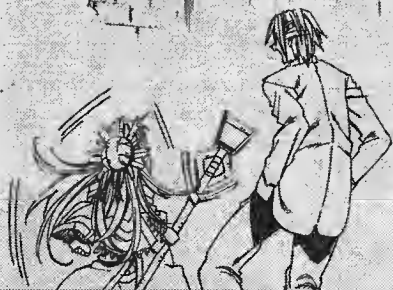
私の願<sup>ねが</sup>いを  
叶<sup>かな</sup>えてくれて



お父<sup>とう</sup>様<sup>さま</sup>が  
笑<sup>わら</sup>ってくれて

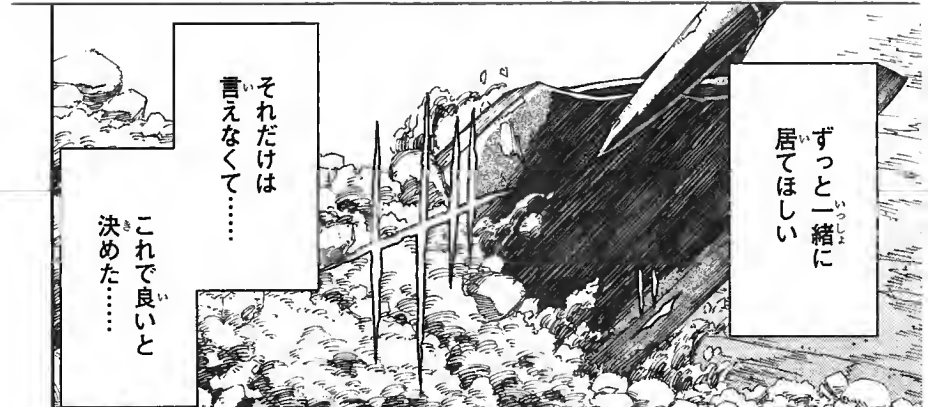


調子どうしにのり過すぎて  
怒おこられも  
しちやっただと



楽たのしくて……


楽たのしくて……



ずっと一緒に  
居てほしい

それだけは  
言えなくて……

これで良いと  
決めた……



だからせめて

わら  
うさま  
笑ってお父様を

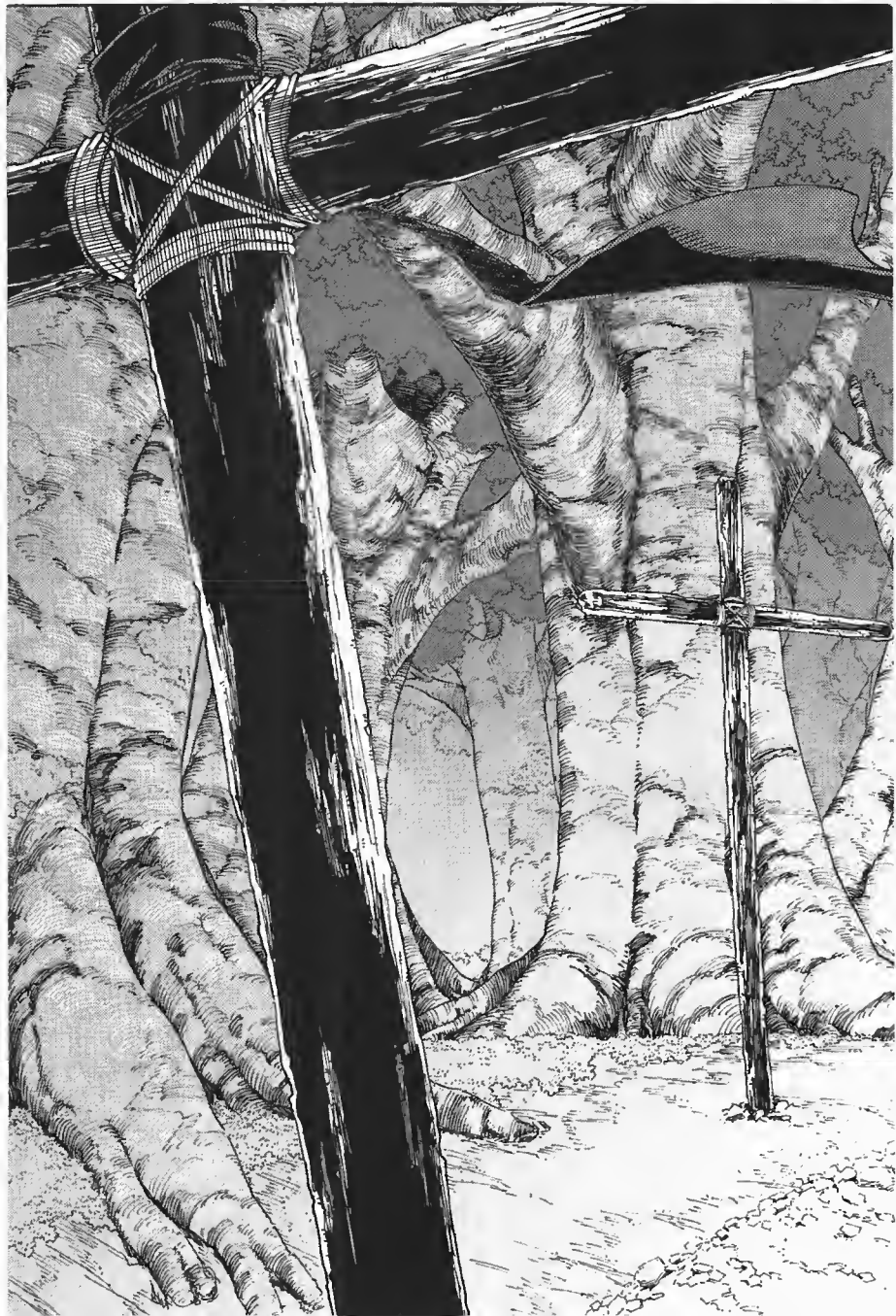


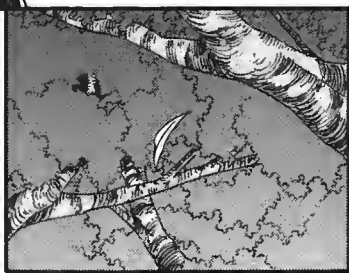
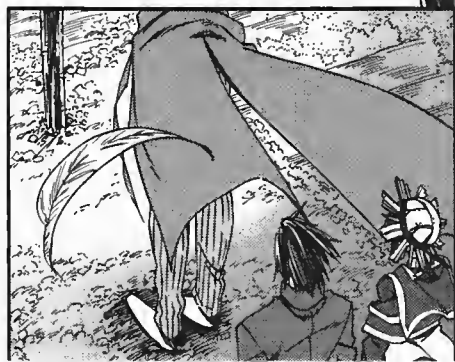
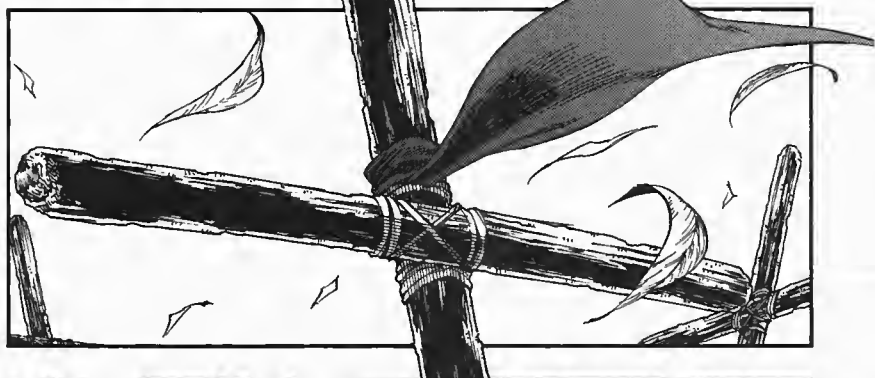
すまない

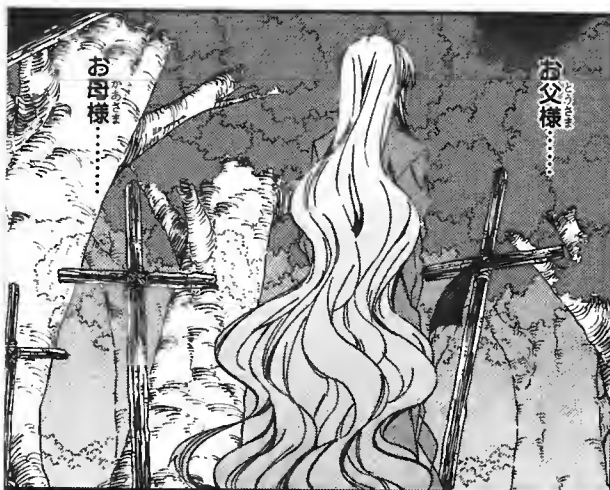












わたし  
私は  
はか  
墓守です……

……いえっ

わたし  
私は  
はか  
墓守になります！

どうじゃ  
生者も死者も  
かんけい  
関係なく

ひと  
人が善も悪も  
なせるように

わたし  
私がそれを  
みも  
見守ります！

天国も地獄も  
なくなつて

神様が  
いなく  
なつても！

私がこの世界を  
終わらせません！

神様がこの世界を  
捨てるのなら

私がそれを貰います！！



君は分かつて  
いるのか？



……手伝って

くれますか……？



それは不可能な  
夢だぞ？

空を飛ぶとか  
月に行くとか

そういうレベルの  
話じゃない

君は別の宇宙に  
行きたいと  
言っているのに  
等しいんだぞ



おい……  
ちよつと待て……

今は分かつて  
ませんが

……でも



それを……

分かつてません





と  
届かなくても





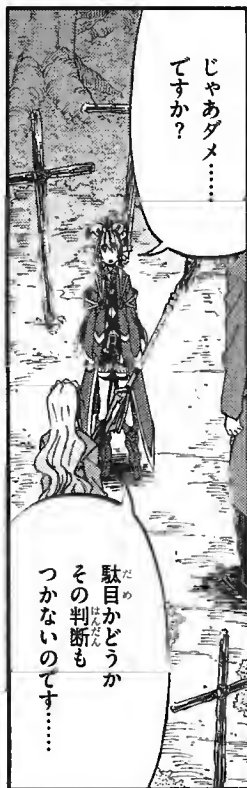
あなたは私を  
ひどく  
混乱させます

それは私たちの  
機能では  
ありません……



ですから  
見ていようと  
思います

あなたの  
ことを……



じゃあダメ……  
ですか？

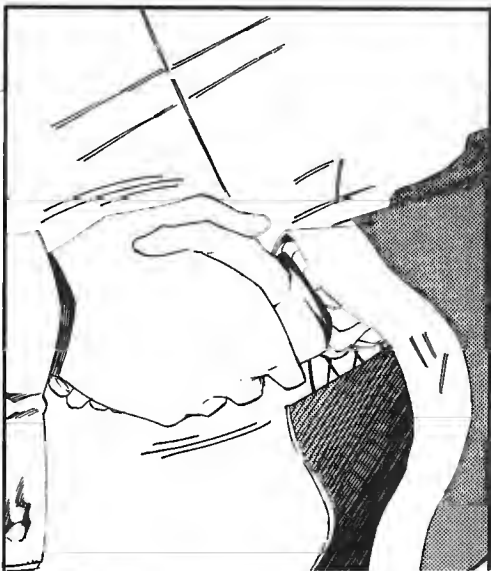
駄目かどうか  
その判断も  
つかないのです……

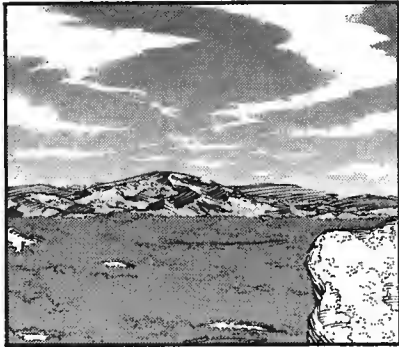
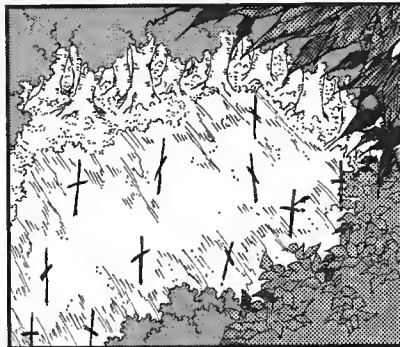


私はあなたや  
あなたのお母様が  
抱いた夢と  
いうものを

見てみたい

はかどり  
墓守である自分の  
機能を  
超えてみたい





さて

ひとまず  
ひぐさ  
人里に  
降りようか

それですと

いちどかいどう  
一度街道に  
出た方が  
いいですね

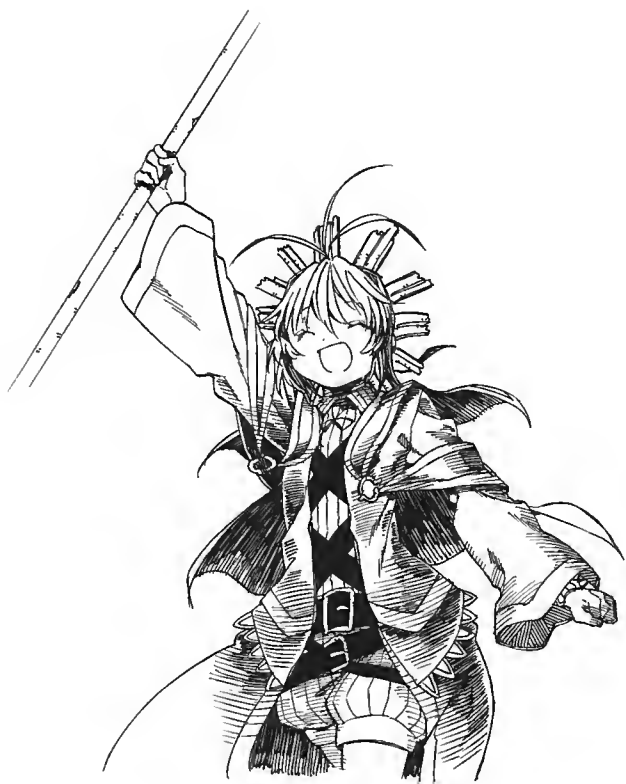
あと

なぐさん ひと  
沢山の人が  
いるところに  
行ってみたいです！

た  
もの  
食  
べ  
物  
が  
お  
い  
し  
い  
と  
こ  
ろ  
!







## ORAGON COMICS AGE

ドラゴンコミックスエイジ

### 神さまのいない日曜日 3

原作  
いり え き み と  
入江君人

作画  
あばらへい き  
肋兵器

キャラクター原案  
しの  
茨乃

2012年11月9日初版発行

発行者／山下直久

発行／富士見書房

<http://www.fujimishobo.co.jp>

〒102-8144 東京都千代田区富士見 1-12-14 (03)3238-8591 (編集)

発売／角川グループパブリッシング

〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3 (03)3238-8521 (営業)

カバー・本文デザイン／伸童舎

印刷／大日本印刷

製本／BBC

初出／月刊ドラゴンエイジ(富士見書房刊) 2012年1月号、3月号～7月号

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係までお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。

この作品はフィクションです。実在の人物・団体とは関係ありません。

2012 Fujimishobo, Printed In Japan

©2012 ABARAHEIKI

©2012 KIMIHITO IRIE・SHINO

ISBN978-4-04-712837-8 C0979

